兵庫県
頃名勝と天然紀念物

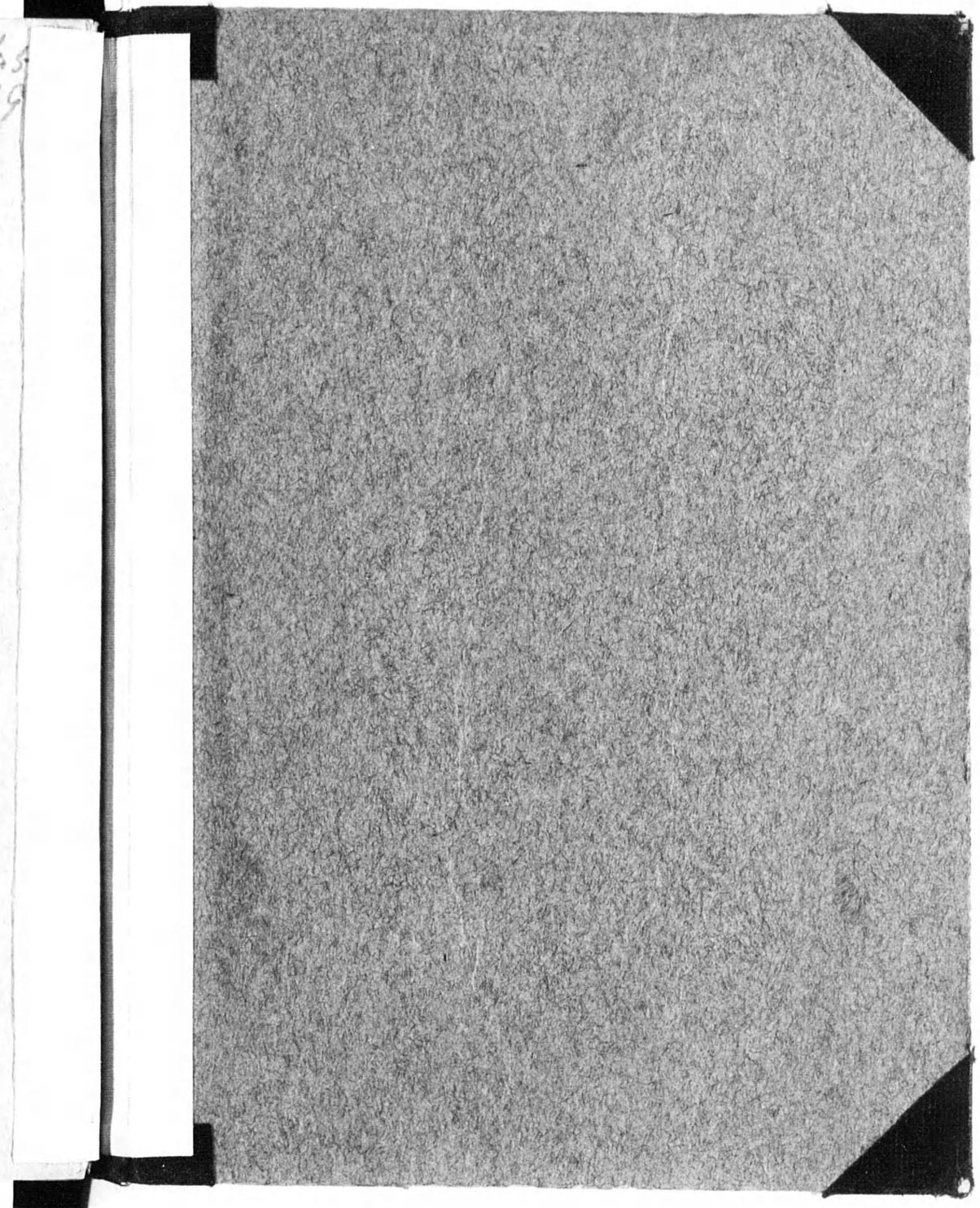
14.5
79
14. 5-79
1200501213589

始

145
79

史蹟名勝と天然紀念物

兵庫縣



序

明治維新以來、わが國は歐米文化の享受に急なりし爲歷史上の貴重なる遺蹟或は名勝天然紀念物の破壞せられ、或は頽廢に委せられて湮滅に歸せるもの尠からず。しかのみならず、近年國民經濟の發展に伴ひ、產業交通等に關する新施設の激增と共にますゝその風を助長するの傾向著しき故に、今速かにその保存と顯彰とを企劃することの急務たるは言を待たず。

さればさきに本縣にては、史蹟名勝天然紀念物調查會を創設して、その調查保存の事業を起し以て國民精神の涵養、鄉土愛重の念の喚起につとめたるが、爾來十數年を經、大正十年飾磨郡播磨國分寺阯が史蹟として內務省より指定せられたるをはじめとし、史蹟名勝天然紀念物保存法によつて指定にかゝるもの縣下二十二箇所に及び、その他本縣として保存の方法をはかりしもの七十餘箇所、各郡に亘る調查委員調查報告書を公刊すること既に九冊に及べり。

14.5-79

この小冊はこれら業績の一部を概括的に江湖に示すため、寫眞圖版を主とし、それに簡略なる解説を加へたるものにしてもこよりそれらの精覈なる學術的調査は年を逐ふて完成を庶幾するものなり。

昭和八年三月

兵庫縣

凡例

一、本册は兵庫縣下に於ける史蹟名勝天然紀念物の中、保存法に依り指定の告示をうけたるもの及び縣保存規定に依りて保存を講ぜるものに付きて通覽の便を得る樣編纂せり。從つて記述は可成簡略を旨とし概要を記すに止めたり。

一、配列は市郡別とせり。

一、踏査の便を慮り、各々最短距離の省線、電鐵下車驛よりの里程方向交通に就き記せり。

一、附錄として縣下に存する御陵墓、史蹟名勝天然紀念物、國寶及び建造物の一覽表並びに兵庫縣史蹟名勝天然紀念物調査報告書總目次を載錄せり。

目次

神戸市

後醍醐天皇御駐輦阯（史蹟　内務大臣指定）
生田森（天然紀念物　内務大臣指定）
敦盛塚
須磨關屋阯
和田岬砲臺
高羽ノ樟

姫路市

伏見天皇離宮傳説地
姫路城（史蹟　内務大臣指定）
國府遺蹟
輿塚古墳
檜柏（千古松）
龜居ノ松（本徳寺）

西宮市

西宮砲臺
漢織吳織ノ松
染殿池

武庫郡

處女塚古墳
千年家
丹生山

明石郡

五色塚(千壺)古墳
小壺古墳
瓢塚古墳
舞子砲臺跡

美囊郡

志染ノ石屋
藤原惺窩誕生地

（史蹟　内務大臣指定）

（史蹟　内務大臣指定）

（史蹟　内務大臣指定）

加東郡

王塚
赤松氏範墓
關龍灘

加西郡

玉丘古墳

加古郡

高砂ノ松
尾上ノ松

印南郡

石寶殿
六騎塚
曾根ノ松

飾磨郡

境場山古墳

（天然紀念物　内務大臣指定）

（　同　）

（天然紀念物　内務大臣指定）

（史蹟　内務大臣指定）

同　第一、第二、第三古墳

播磨國分寺阯

華山天皇臨幸地

河合家墓所

仁壽山校阯

菅公小憩傳說地

神崎郡

片山古墳

太子堂阯

揖保郡

瓢塚古墳

峰相山寺阯

德道上人遺蹟

聚遠亭

旁崎ノ屏風岩

明治天皇御駐輦碑

（天然紀念物　文部大臣指定）

（同）

（同）

赤穗郡

明治天皇御駐輦ノ碑

明治天皇御駐輦紀念碑

明治天皇小休所

大石良雄宅阯

山鹿素行謫居地

瓜生羅漢石佛

白旗城阯

大石なごりの松

生島ノ樹林

檜柏（法雲寺）

（史蹟　内務大臣指定）

佐用郡

後醍醐天皇御駐驛傳說地

後醍醐天皇御通輦ノ碑

（史蹟　内務大臣指定）

宍粟郡

鹿ケ壺甌穴

城崎郡

玄武洞

釣鐘洞門

出石郡

鶴山鸛蕃殖地

養父郡

青谿書院

妙見ノ大杉

大櫻（樽見ノ仙櫻）

朝來郡

舟ノ宮古墳

竹田城阯

八代ノ大欅

枝垂櫻

（天然紀念物　文部大臣指定）

美方郡

大島

山名公墓所

猿尾瀧

氷上郡

二間塚

欅（木ノ根橋）

公孫樹（吉見村）

公孫樹（大名草）

欅（黒井町）

多紀郡

日置村裸樫

一里塚

津名郡

五色濱

（天然紀念物　内務大臣指定）

高田屋嘉兵衞記念碑

三原郡

野邊宮

淡路國道松並木

慶野松原

千手ノ松

鶴來山長壽院廢寺

志知城阯

（天然紀念物　内務大臣指定）

（名勝　内務大臣指定）

（天然紀念物　内務大臣指定）

兵庫縣管內略圖

史蹟名勝と天然紀念物

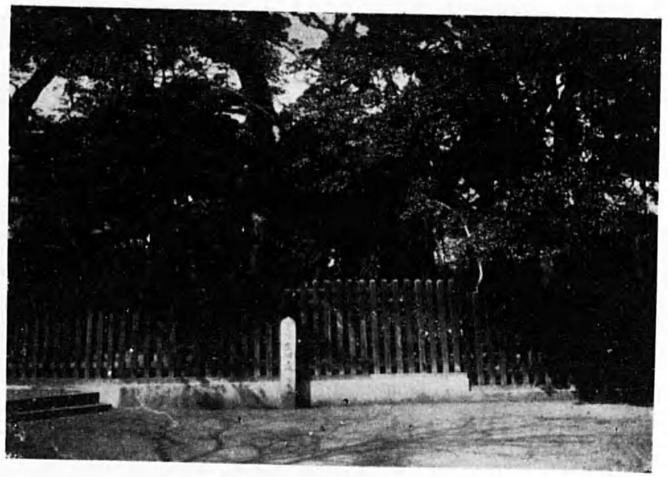
後醍醐天皇御駐輦阯

神戸市兵庫區門口町

市電　柳原停留所南約一丁

兵庫福嚴寺は元弘三年五月後醍醐天皇隱岐より御還幸の途次畏くも聖駕を駐めさせ給ひし聖蹟なり。太平記に依れば御逗留は三日に渉り會々手兵を率ひて山門に迎謁せる楠正成公を召されてその功を嘉賞せられ又鏁倉陷落の捷報到り、叡聞に達するや龍顏殊に美しく當時庭前の老松髯蒼として千秋清節を變へざるを賞はせられこの松に蒼官護國の神銘を賜ひたりと云ふ。

蒼官護國ノ松



森　田　生

梅　ノ　旅

生田森

神戸市神戸區下山手通一丁目

市電　下山手通一丁目停留所南二丁

此の地は福原の都の東の大手に當る。壽永三年二月六日源氏の軍勢先づ此處に押し迫り兩軍の間に激戰ありし事平家物語に詳し。かの梶原源太景季が箙に梅を挿し、傳說は武人の風雅を偲ばしむるもの、今境内に一株の老梅を存し生田森の戰の名殘を止めたり。

降りて建武、延元の戰亂に際しては、楠正成、新田義貞等の皇軍と足利勢との交戰地と成れり。今市街の中央と成りて僅かに生田神社の境内として舊時の俤を殘せり。

神戸市

敦盛塚

神戸須磨區西ノ谷字三ノ谷

宇治電鐵　敦盛塚停留所西一丁

三の谷、國道の山側に在り。五輪塔にして梵字を刻し高さ三米餘古色を存す。世に敦盛塚と稱す。壽永三年二月一ノ谷の合戰に於て平敦盛が熊谷直實の手にかゝり悲壯なる最後を遂げしは人口に膾炙する處なり。一說に曰く是は「あつめ塚」にして平家一門の死者を追弔するため弘安の頃北條高時の建てたるもの、死者をあつめし故にあつめ塚と云ふなりと。

須磨關屋阯

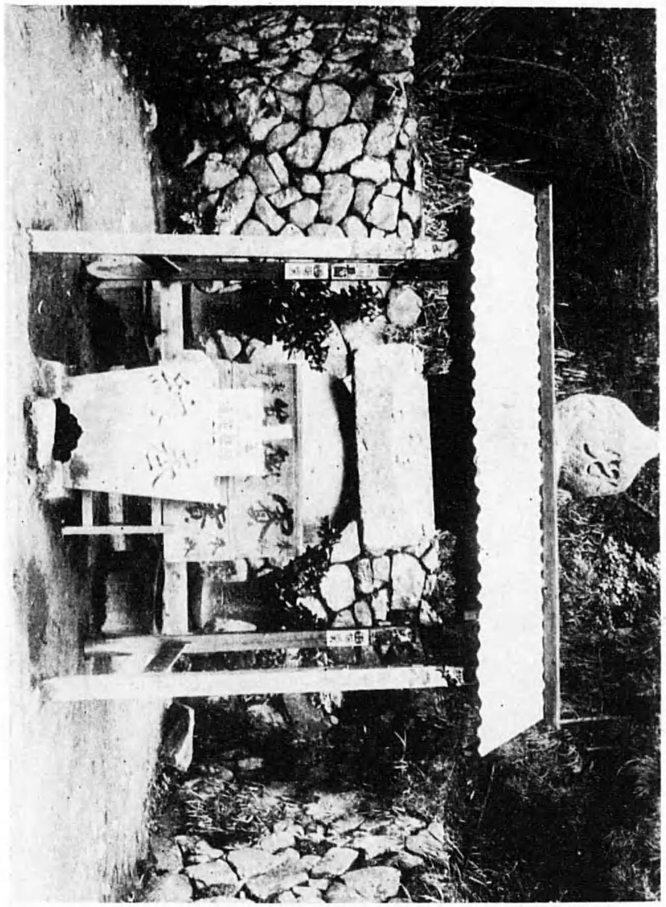
神戸市須磨區西須磨下澤

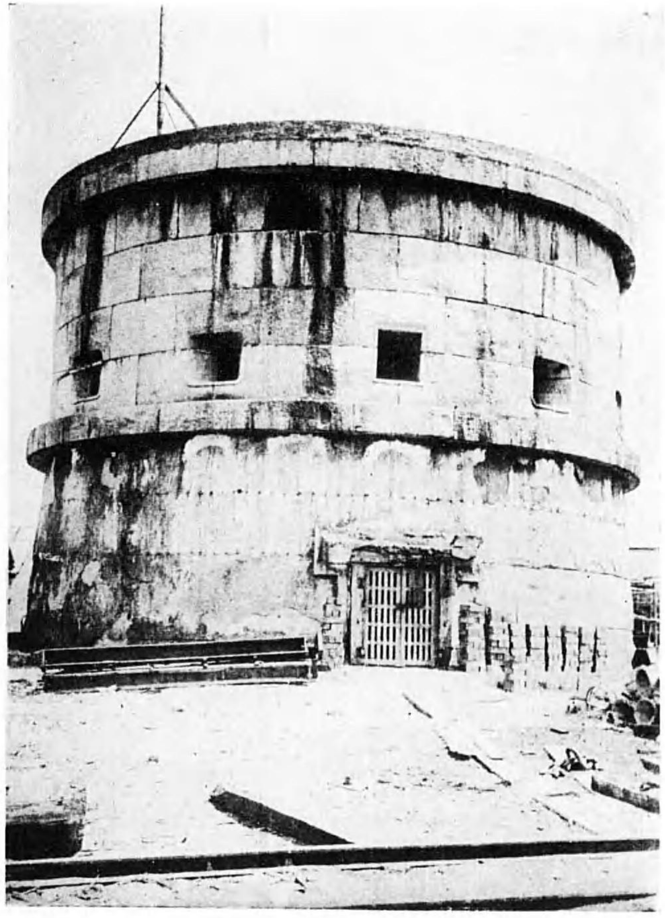
宇治電鐵　須磨驛前から東北約三丁

西須磨の西、現光寺の邊を濱架（マヒガキ）と云ひ國道の南に一堆の臺地あり俗に檜阯と稱す。

淡路島かよふ千鳥のなく聲に幾夜ねざめぬ須磨の關守

の古歌に名高き須磨の關阯はこの邊なりと云ふ。





和田岬砲臺

和田岬砲臺

神戸市兵庫區和田崎町

市電　笠松通七丁目停留所約南三丁

和田岬の尖端にあり、其形臼に似たるを以て土民臼砲臺と云ふ。高さ約一一米、周圍略三八米外圍は花崗岩を以て築造す。内部は木造二階となし、階上に砲を据え、砲門十二を開く。文久三年勝安房守の建策によりて業をはじめ、彼自ら監督にあたり、元治元年八月竣工せるものなり。當時、西宮、今津、神戸、川崎の各所にも之と同形の工を起せり。西宮のもの亦遺存せり。

（大正十年三月内務大臣指定　史蹟）

（縣報告書　第二輯參照）

高羽ノ樟

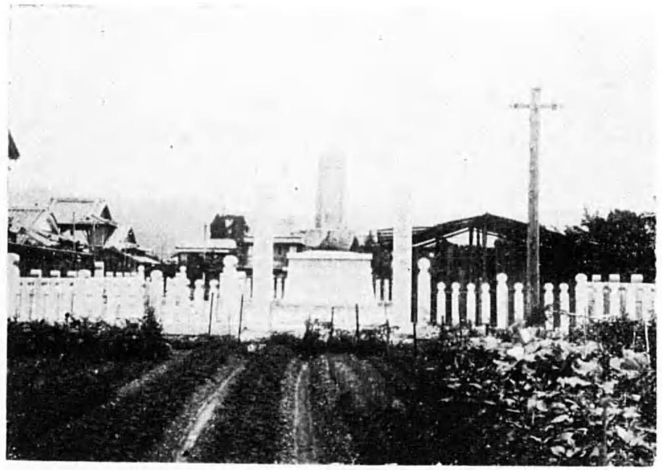
神戸市灘區高羽

阪神急行電車　六甲停留所南

六甲高羽部落の中央、阪急線の南手、楠ケ丘の人家の間に巨大なる樟樹一株あり、遙かの遠方よりも望見し得べし。幹より二・五米の所より三大幹に分岐し、各幹更に多數の枝を派生す。高二〇米、目通の周一一・五米を測る。

（昭和三年一月十八日内務大臣指定　天然紀念物）

高　羽　ノ　樟



伏見天皇離宮傳說地

姫路城遠望

伏見天皇離宮傳說地

姫路市八代字御茶屋

山陽線　姫路驛東北約二十五丁

もこの城北村八代の東光寺東邊に御茶垣内と稱する地數町歩あり。これ伏見天皇がその御領地の關係より御卽位前に寺院を設け弘安十年御卽位勅封の御式を行はせられて離宮の地と治定せられし地なりと傳へり。

姫路市

姫路城

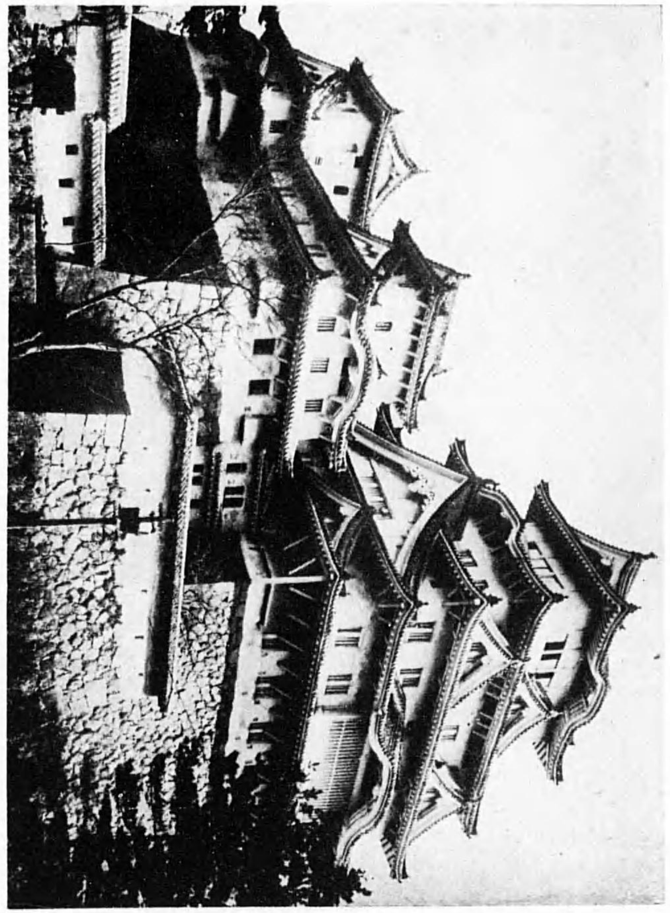
姫路市本町

山陽線　姫路驛北五丁

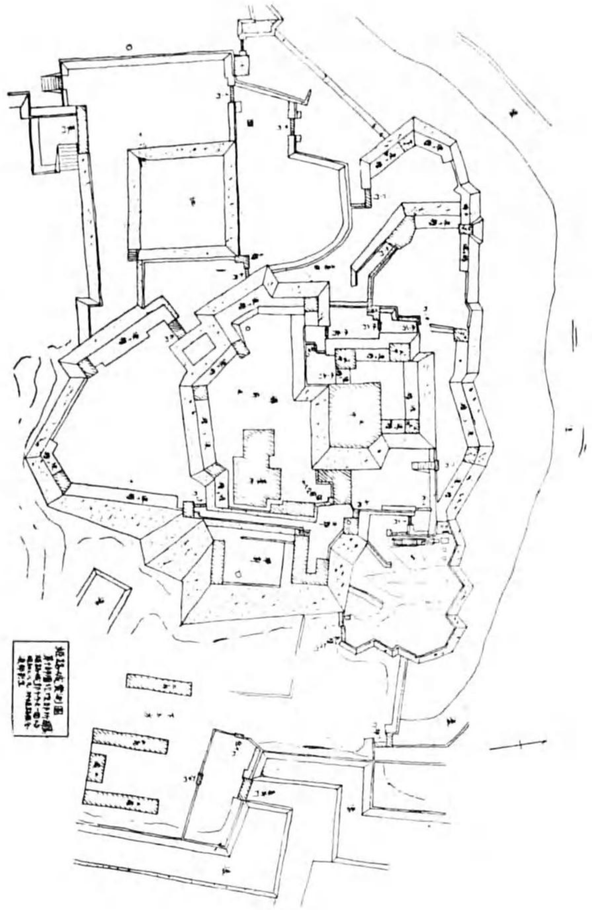
一に白鷺城と稱し姫路市中央、姫山なる孤立丘を中心として形成せらる。本城は初め豐臣秀吉の手に計畫せられ次いで池田輝政に依り大成せられ軈て本多忠政の代に修飾せられて今見る如き規模を備ふるに到りたるものなり。その規模が整備し且比較的宏大なる事、地形のすぐれし事、建築美に富める事等を以て實に全國屈指の名城たり。今開きて姫山公園となし一般に公開して市民の保健及び娯樂の用に供せり。

（昭和三年九月内務大臣指定　史蹟）

（縣報告書　第五輯參照）



閣守天城路姫



姫路城路線圖

國府遺蹟

姫路市城東町字高田

播但線　京口驛東約十丁（乘合自動車の便あり）

姫路市城東町は元、志深莊國府寺村と呼びし所にして今字に高田と稱する地は方六三米許一段高くして周圍に濠を繞せる所あり、俗に城跡と稱す。この地王朝時代に播磨の國衙のおかれし地點なりと推考され東方に位置する國分寺阯と共に往昔この附近が播磨一國の中心地なりし事を示す遺跡なりとす。

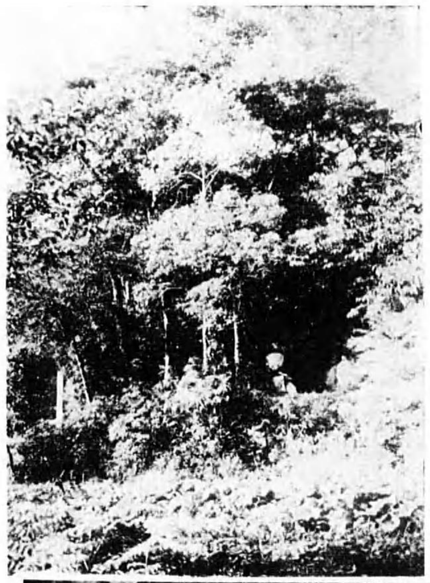
姫路市

輿塚古墳

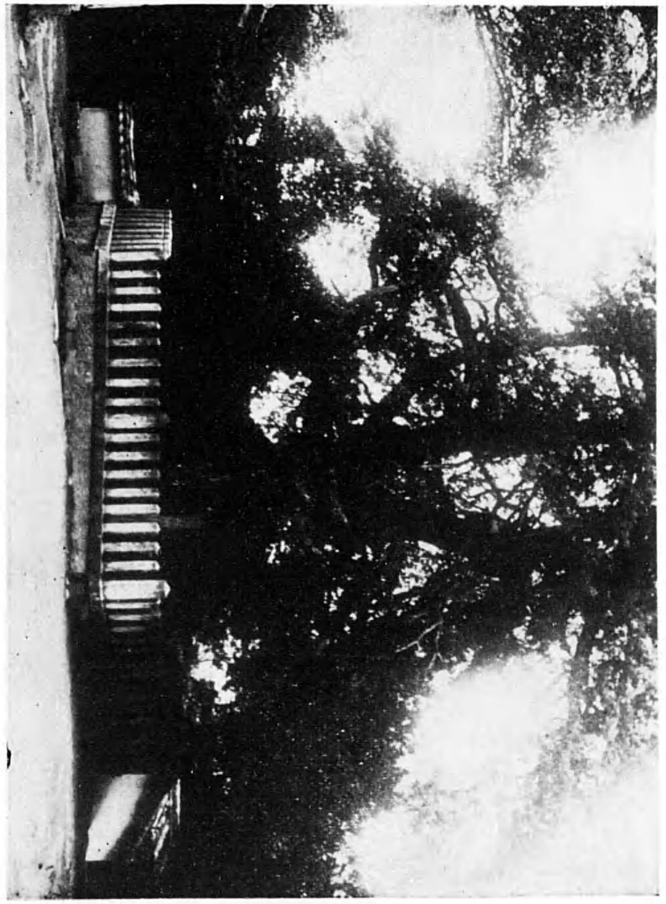
姫路市平野

山陽線　姫路驛東北約一里半　播但線野里驛西北約一里

横穴式石室古墳にして石室内に石棺を遺存す。石室の長さ九米。石棺は長さ二・一五米巾一米、高一・〇五米あり、組合せ式の精緻なる構造を示す。國造の古墳等傳ふるものこより明かならず。廣峰神社の祭神素盞嗚尊の石の輿物こ傳ふるよりこの名あり。



(上)輿塚古墳外觀
(下)同石槨内石棺



姫路市

檜柏（千古松）

姫路市城北　廣峰神社境内

山陽線姫路驛北一里半

姫路市の北端白幣山々中に名社廣峰神社あり。境内東南隅の檜柏は樹高一三米餘一・五米の高さにて周圍三・八米を測り枝の擴り約一アールに達する大木にして天然紀念物こして珍重するに足るものなり。

（縣報告書　第三輯參照）

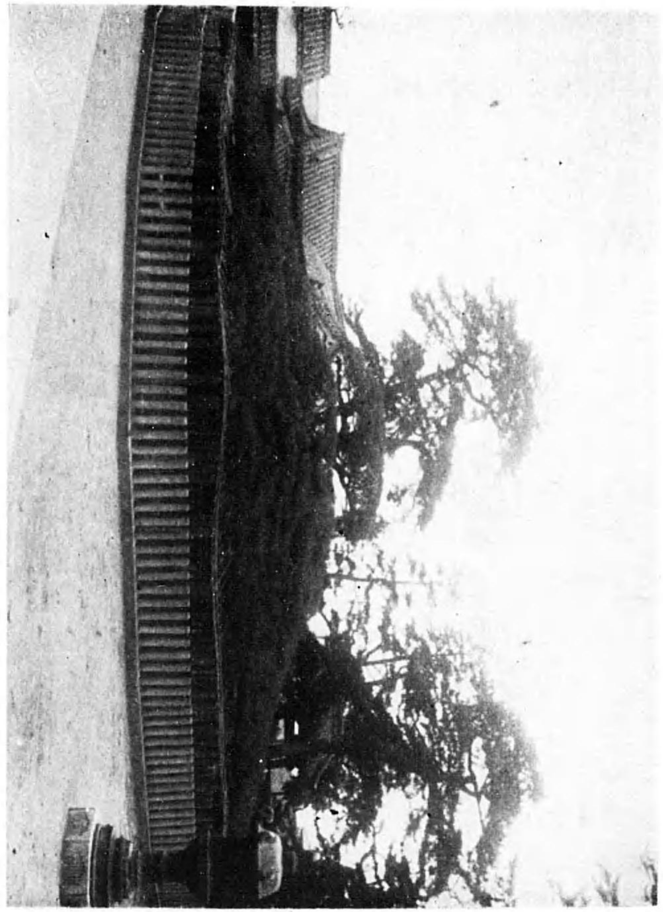
亀居ノ松

姫路市池内町本徳寺境内

山陽線　姫路驛西約十五丁　（乘合自動車の便あり）

東本願寺別院本徳寺（船場御坊と稱す）山門内東南隅に黒松あり。享保三年本堂再建記念として聞光院手植にせられ龜居松と稱せられたりと傳ふ。枝の擴り廣く凡そ三・三アールに達す。地上一・五米の幹の周圍四・四五米、樹高六・三六米。

（縣報告書　第三輯參照）



（上）西宮砲臺石堡塔
（下）同石堡塔内部

西宮砲臺

西宮市西波戸

阪神電車　香櫨園停留所南東十二丁

西宮砲臺は西宮市の西海岸夙川の邊にあり。幕末多難の際攝海の防備、延いては京畿擁護の目的にて築造せられしものにして工事は勝安房の監督にかゝり慶應六年六月の交に竣成せりと認められる。

砲臺は中央に花崗岩にて積み成せる圓塔形の堡塔を据えその内部を三層となし第二層に砲座を設け、砲二門を据えたり。堡塔の大さ徑約一二米高さ約一〇米あり。明治十七年火災に罹り内部の架構を燒亡し今はその外廓を遺すのみなり。

（大正十一年三月内務大臣指定　史蹟）

（縣報告書　第二輯參照）

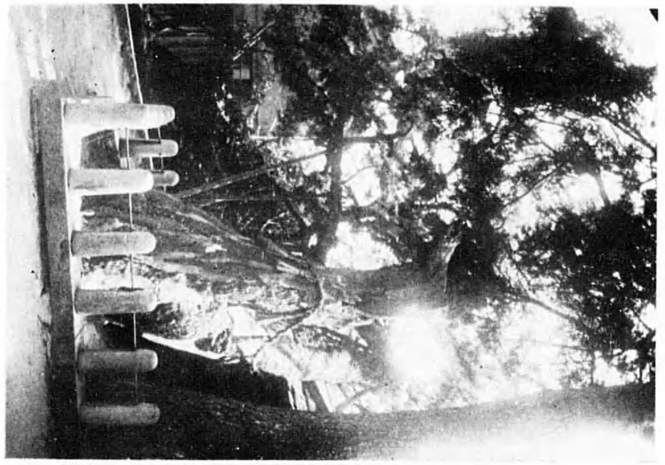
西宮市

漢織吳織ノ松
染殿池

西宮市染殿町

東海道線　西宮驛南五丁、阪神電車西宮東口直ぐ東北

所謂津努の松原の地にあり。傳へに云ふ、應神天皇の御代漢織吳織、來朝に際して此の地に上陸し慕郷の念止み難きにより此の松を植えて紀念こすこと。染殿池は其傍に有り。漢、吳二女の染織の池なりと云ふ。延喜の世菅公左遷によりて筑紫へ下るの途此の地に假泊せるに依り後に祠を營んで祭れるを以て此の古松清池の舊名亦新になれり。小澤種春の弘化三年の碑文ありて此の消息を傳へたり。



松ノ織吳織漢

池殿染

（景全るた見りよ方東）墳古塚女處

處女塚古墳

武庫郡御影町大字東明

阪神電車　石屋川停留所西一丁半

萬葉集卷九の長歌及び大和物語の傳說に名高き處女塚の一にして他の住吉吳田、灘味泥のもの破壞せられ殆んご址を止めざるに對し此のみほぼ完全に遺存せり。所謂前方後圓墳に屬し南面し、全長六五米前方部の長さ二五米後圓部徑三七米、後圓部の高さ五・四米前方部の高さ四・三米を測る。後圓部頂に二つの碑あり、一つは延元々年五月湊川合戰の時新田義貞の身代りとしてこゝに戰死せる小山田高家の忠烈を記念ご するもの、一つは菟比處女に關するもの、加茂季鷹八十一歲の作になる左の歌を刻せり。

古の小竹田男の都萬ごひし、宇那ひ處女のおくつきそ是。

（大正十一年三月內務大臣指定史蹟）

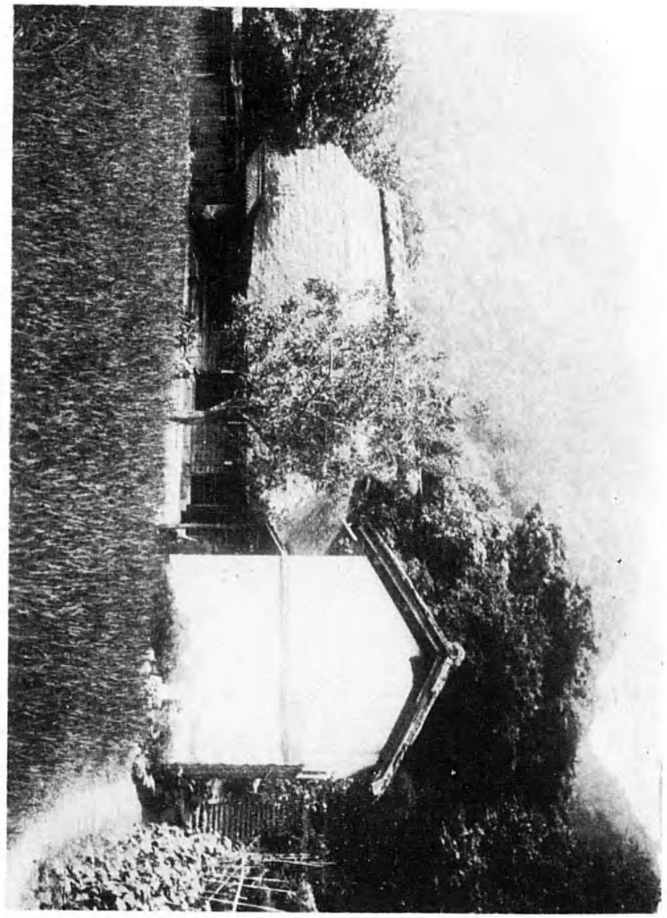
（縣報告書　第一、第二、第四輯參照）

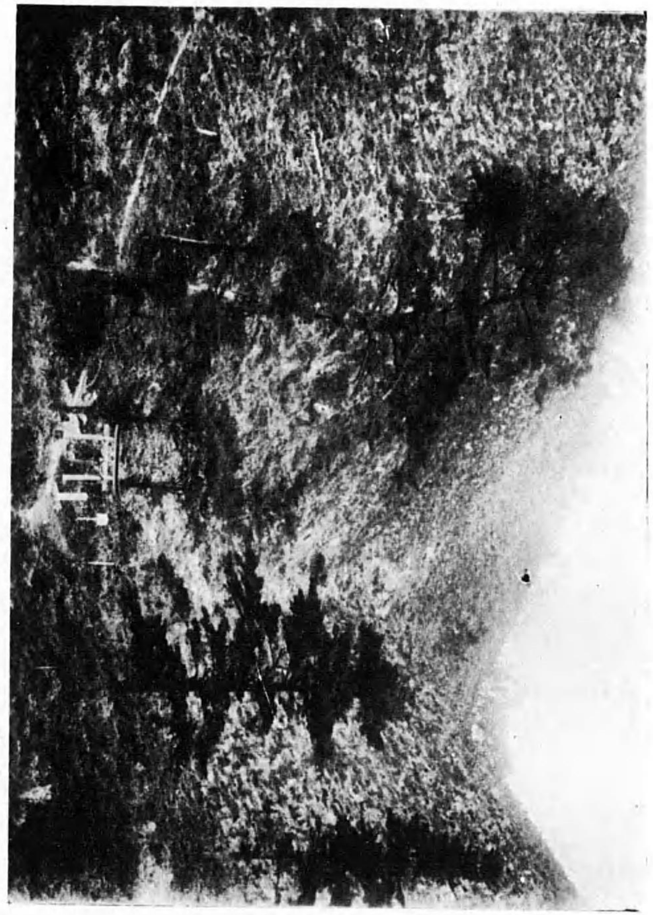
千年家

武庫郡山田村衝原

神有電鐵箕谷驛西約一里（乘合自動車の便あり史蹟）

衝原箱木氏の家の稱なり。住宅の內二室、大同年間以來のものと傳ふ。攝津名所圖會に之を云へり。此年代については尙史家の異說なきに非ずと雖、住宅建築として珍こすべきものたるを失はず。箱木氏は同地の舊家にして其の先鏃足より出づといふ。





山生丹

丹生山

武庫郡山田村字坂本

神有電鐵箕谷驛西約一里（乘合自動車の便あり）

一名帝釋山とも云ひ山田村の北界をなし美嚢郡淡河村の上にそびえ老樹翁鬱と繁る山上に村社丹生神社奉祀せられ、社殿の地より下瞰すれば遙か西南に明石海峡を望み眺望絶佳なり。神社の神宮寺に明要寺あり、今廢せられてその遺跡を滅せりと雖昔時は大寺にして南北朝時代多くの衆徒を擁し一勢力をなし勤王軍に加はりし事は古文書に明かなり。

降つて天正年中三木城主別所長治に連せしため羽柴秀吉の爲に襲はれ堂塔伽監兵火にかゝりて廢滅に歸せしめられたりと云ふ。

（縣報告書　第三輯參照）

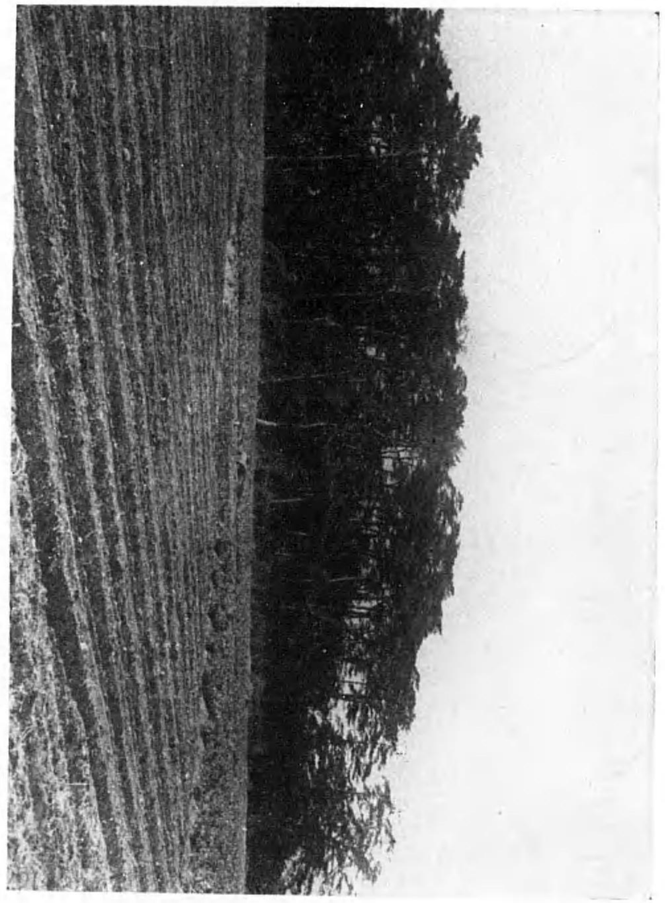
五色塚(千壺)古墳、小壺古墳

明石郡垂水町

宇治電鐵　五色山停留所下車直ぐ北

前方後圓の一大古墳にして南面して舞子濱に向ひ明石海峽を隔てゝ淡路島に對し誠に景勝の地を占む。前方部の一部を電車軌道工事の爲截斷せらるゝの他、他の部分はほゞ原狀を存し濠も七分殘存せり。大さは後圓部の徑約一五二・七米南北の全長二一八米に及び高さ又前方部にて一一米後圓部にて約一八米を測る。その規模大なること以て知るべし。今墳上は荒廢せるも、もと淡路五色濱より運べる五色の葺石を以て飾り、繞らすに圓筒を以てせり。これ五色山、又千壺の名のおこる所以なり。傳へ云ふ、麛坂忍熊二王が仲哀帝のために興し給へる陵墓なりと。小壺古墳は之に接して東にあり、圓墳なり。

(大正十年五月内務大臣指定　史蹟)
(縣報告書　第二輯參照)



(む望りよ北東)墳古(壺千)塚色五

（む望を部圓後りよ部方前）墳古塚瓢

瓢塚古墳

明石郡伊川谷村

山陽線　明石驛西北約一里（乘合自動車の便あり）

矮松の繁生せる小丘陵の山頂に營造せられたる前方後圓墳にしてその大さ前後の徑六〇・六米後圓徑三九・四米前方部の長さ三〇・三米高さ三米を測る、墳上樹木なき故封土流出しつゝあるも原形をよく遺存す。埴輪圓筒の圍繞ありしならんも今僅かにその一部をのこすに止まる。南方明石海峽を遠く望み誠に景勝の地なり。この墳の西方數間の所に小圓墳あり昭和七年、環刀玉等を出せり。

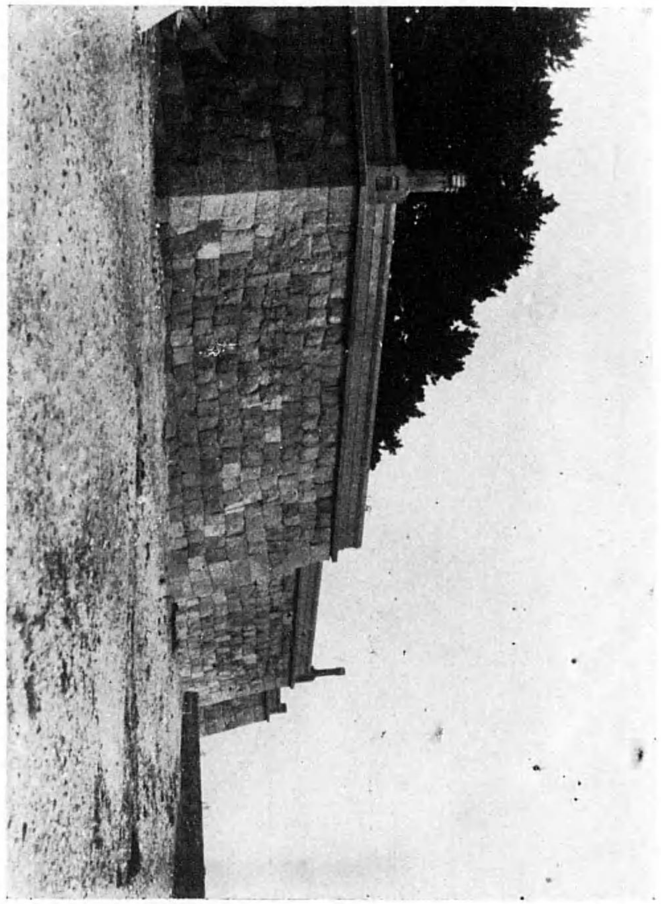
舞子砲臺跡

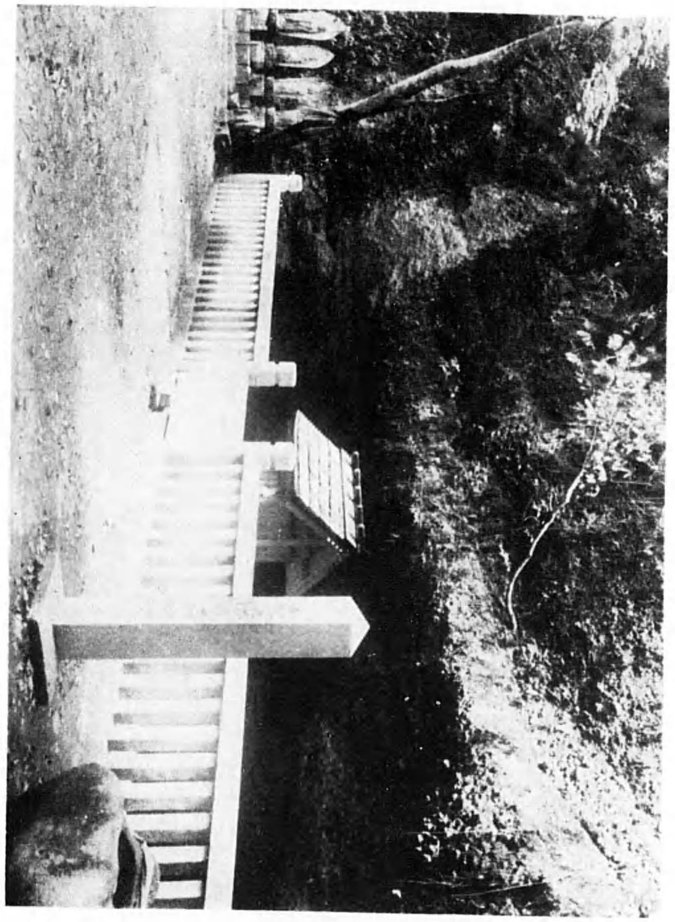
明石郡垂水町山田字舞子

山陽線　舞子驛直ぐ南
宇治電鐵　舞子停留所直ぐ南

幕末、攘夷の說專ら高く國家内外多事なりし時、幕府が明石海峽防備のため明石藩に命じて築造せしめしもの。今その石垣のみのこれり。

此の地、淡路岩屋に對し海峽の距離最も狹まくなれる所にして、最も景勝の地なり。對岸岩屋にも砲臺跡あり。





屋石ノ染志

志染ノ石屋

美囊郡志染村

播丹線　三木驛東一里二十丁（自動車の便あり）
神有電鐵　箕谷停留所西三里（自動車の便あり）

金山又は金穴と稱し幅約一四・五米奥行約七・二米の洞窟を爲す。鄕人傳へて弘計億計二王御隱棲の窟と云ふ。弘計王は後の顯宗天皇に坐しまし、億計王は仁賢天皇なり。二王の御父市邊押盤皇子の雄略天皇の御爲に害はれ給ひし時、後難を慮り給ひて播磨國縮見山の石室に身をかくし給ひし事、古事記日本書紀に詳く見えたり。洞内には水を湛へ菜種の花時に黄金色を發するに依り金水を稱す。之水中に光藻の發生するに依る現象にして天然紀念物として珍重すべきものとなす。

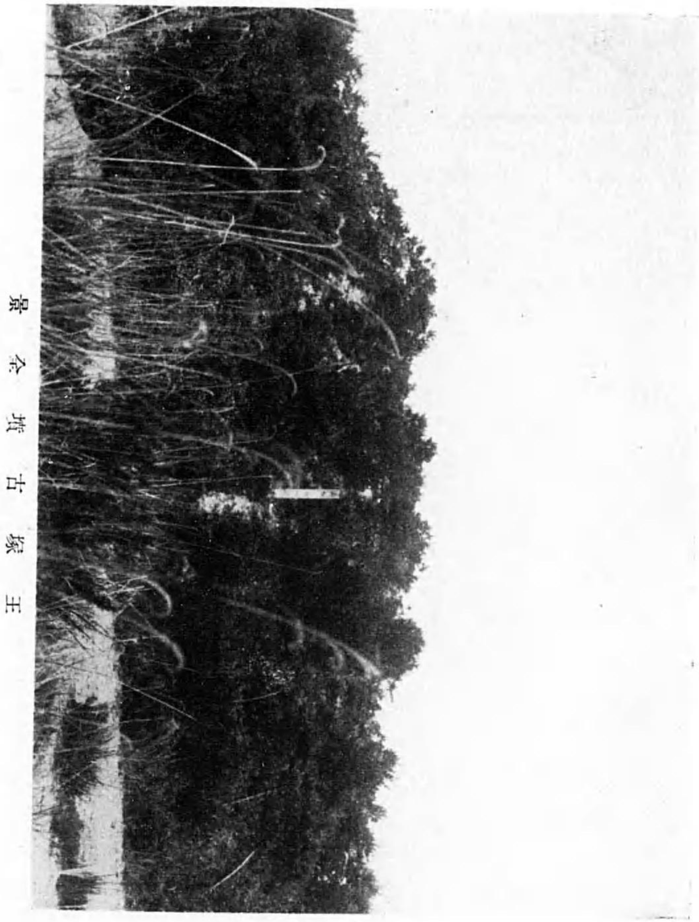
藤原惺窩誕生地

美嚢郡細川村桃津字ヲカマヘ

播丹線　三木驛東北約二里(乘合自動車の便あり)

碩儒藤原惺窩は中納言定家十三世の孫、——父は冷泉爲純にして世々播州三木郡細川庄を食む。幼にして頴悟凡ならず、七八歳の頃僧東明に從ひて書を讀み後僧となり東明の師僧九峯について之を學ぶ、天正六年別所長治のため細川庄を侵掠せられしを以て族をあげて京に移り相國寺妙壽院に住し爾來力を學に專らにし經學を研鑽し尤も心を四子新註に潜め遂に儒となり、名聲天下に高し、德川時代儒學興隆の基をひらけり。

藤原惺窩誕生地記念碑



景全墳古塚王

王塚

加東郡大部村王子字宮山八〇一

播丹線　粟生驛東十七丁（宇治電二見驛より乘合自動車の便あり）

若王子の御陵と稱す、其南に接して村社熊野神社あり。里俗王子權現の社として尊崇す。圓墳にして高さ一一米、徑約二九米、周圍に濠を繞らしその周一一八米に餘る一大圓墳なり。

この附近、古墳多く加古川流域の遺跡群集地の一たり。

赤松氏範之墓

加東郡鴨川村清水寺境内

福知山線　相野より西約三里半（山麓まで乘合自動車の便あり）

赤松氏範は則村の四男にして父の死後諸兄と行を共にせずして早く南朝に歸順し、攝津、中島、有馬、備前馬屋鄕を領せり。正平年間南朝の御勢力振はざる時にあたりてよく其の一勢力として諸方に轉戰し、盡忠の誠を致したるが遂に南風競はずして大勢を挽回するを得ず、正平四年中島に兵をあげて足利勢に對せしも敗れ元中三年播磨清水寺に戰ひて又敗れ、子氏春、家則、祐春、秀則の四人及郎從百餘人と共に山中にて自刃し果てたり。現在の墓碑は後世の修造にか、るも毀損甚だしかりしが昭和六年再び修造されたるは喜ぶべし。

（縣報告書　第八輯參照）

赤松氏範墓

鬪龍灘

加東郡瀧野

播丹線　瀧野驛東南約二丁

加古川の中流に當り河中に約一〇〇米にわたりて石英粗面岩の大岩石露出して河流を堰き止め、急湍を作り、奇勝を形成せる所あり。名付けて鬪龍灘と云ふ。その名は梁川星巖の詩によりて夙に普く、文人墨客の來遊するもの少なからず。又この地は鮎の名産地として著名にして近年人工養殖を行ひその成績を上げつゝあり。景觀の美と相まちて遊覽地として最もすぐれたりと云ふべし。

一道飛瀧勢地開　怒聲豪勢鬪風雷
秋入千巖霜葉麗　玉龍躍出錦雲堆

梁川星巖

（縣報告書　第四輯參照）

鬪龍灘

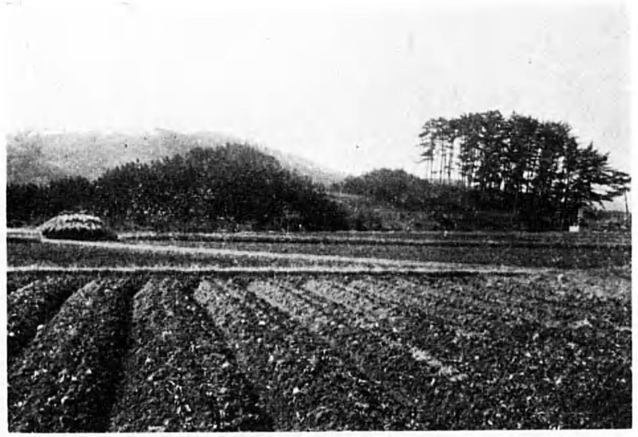
同上

玉丘古墳

加西郡富合村玉野新家

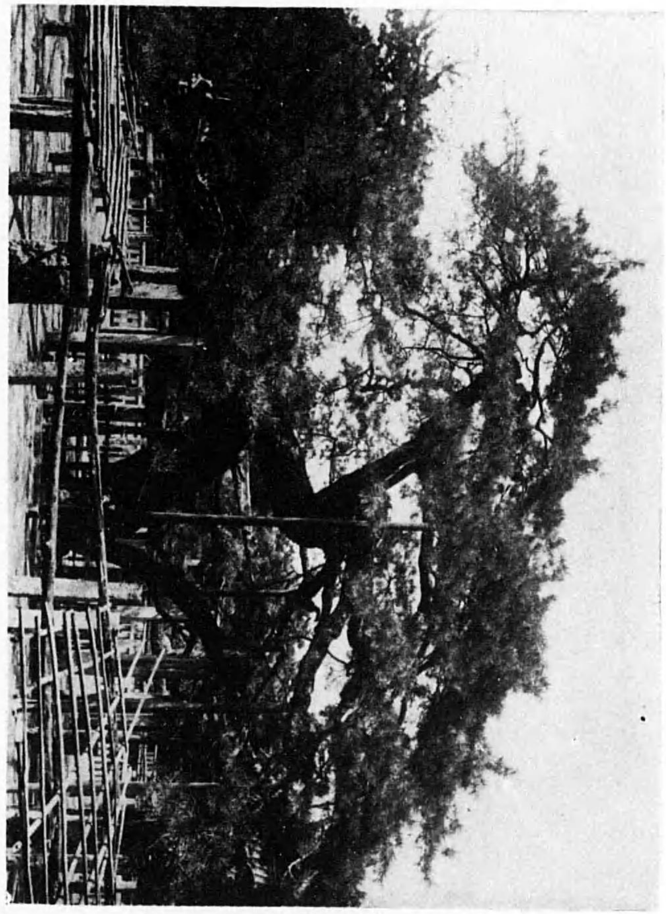
播丹線　北條町驛東約十八丁（自動車の便あり）

北條町の東南方の平野中に位置する整美なる前方後圓墳にして主軸の長さ一〇五米、前方の幅五四米、後圓の徑六四米を測り幅二〇米内外の濠をめぐらせる堂々たる一大墳墓たり。主體部は明治初年發掘の災に遇ひ遺物散佚して今之を知り得ざるは遺憾なるも一部遺存の石棺は組合せ式長持形の形式を示し古式古墳築造時代の絶頂點を示せるもの。播磨風土記賀毛郡の條に依れば此の墓は播磨國造許麻之女根日女命の爲に顯宗仁賢兩帝が營造せしめ給ひしものにして、玉を以て飾らしめ給ひし故に此の名ありと云ふ。



（上）　玉丘古墳全景（前方部より後圓部を望む）

（下）　同　　上（石棺槨石及棺材の一部）



高砂ノ松

加古郡高砂町縣社高砂神社境内

宇治電鐵　高砂停留所南約五丁

縣社高砂神社の境内にあり。尾上の松、曾根の松等と共に古來頗る著名のものなるは言を俟たず。之を植物學的に見るも亦稀有の例に屬す。卽ち赤松と黑松との合成に成り、所謂相生にして黑松主幹となり赤松枝を爲し、兩松その基部にて縱に合着せりその大さ幹と根との境界線に於て周圍三・五米、樹高七・五米枝の最も延びたるものは一八米に餘る。現時の相生松は第二代に屬し、元和の頃姬路藩主本多忠政、之を播州印南郡福井村の山中に獲て此處に移植したるものなりと云ふ。古來名木として貴ばるゝもの誠に故ありと云ふべし。

（大正十三年十二月九日內務大臣指定　天然紀念物）

（縣報告書　第二輯參照）

尾上ノ松

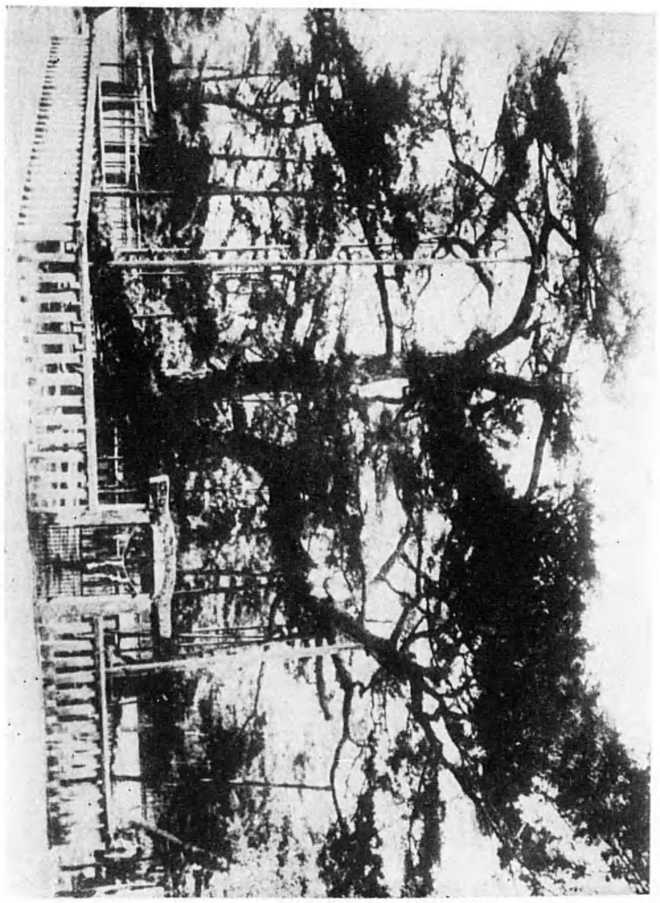
加古郡尾上村村社尾上神社境内

播丹線　尾上驛南約一丁
宇治電鐵　尾上ノ松停留所南約一丁

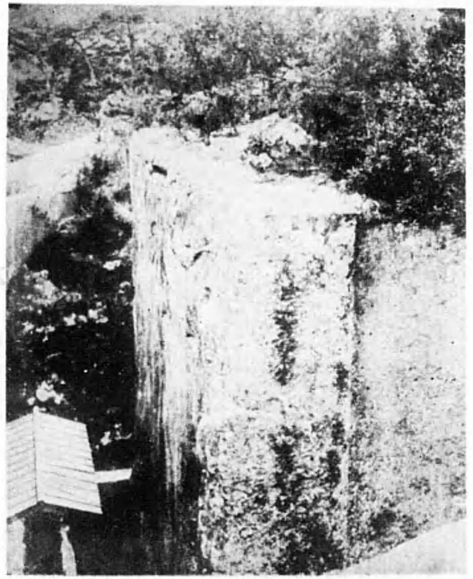
古來名木として人口に噲炙し或は和歌に或は謠曲に現はれ高砂松と並んで名松中の隨一とす。現時のものは三代にして初代は天正年間に存在し、その朽株の一部は現に神社内に保存せられたり。

本松樹は相生松と稱する如く赤松(俗に雌松と云ふ)と黒松(俗に雄松と云ふ)との合生にして、主幹は赤松、幹の基部より西方に出でたる松は黒松なり。此兩松樹は各々幹の下部にて縱に合着し宛然一株の如くなり黒松の幹は宛も赤松より生ぜる枝の如く誠に奇觀と云ふべし。幹と根との境界線にて周約三・五四米、樹高約一五米を測る。

(大正十三年十二月九日内務大臣指定　天然紀念物)
(縣報告書　第二輯參照)



尾上ノ松



（上）生石神社社殿及石寶殿

（下）石　寶　殿

石　寶　殿

印南郡阿彌陀村

山陽線　寶殿驛西南約十二丁

石寶殿は寶殿山の山腹生石神社々殿の背後にあり。三面斷崖を以て圍み池中に横はる。蓋し一大石塊より切り放さんとしてその功半なるものなり。その形石殿を横に倒したる如く棟を西に向け、正面に底を見せ上部には土砂堆積し草木生じ一見古色蒼然誠に奇異の遺址たり。高さ約五米巾七米奥行七・四米を測る。社記に依れば大名持、少彦名の二神天津神の命をうけて國土經營の際一夜にして造り給はんとして成らず半にして止めたるものなりと。早く播磨風土記に記錄見え史蹟として顯著なるもの。考古學的に之を見るに或は石棺の未成品ならんと推考さる。

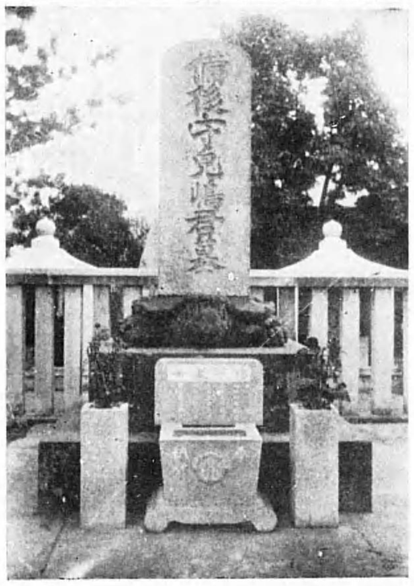
（縣報告書　第九輯參照）

六騎塚

印南郡別所村北宿

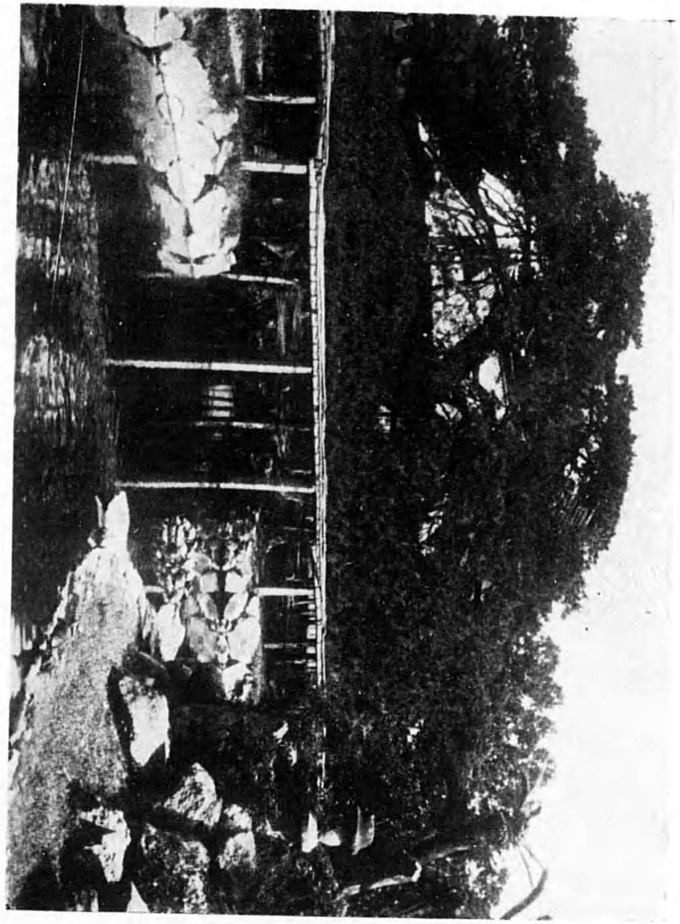
山陽線 曾根驛西北約八丁

延元元年九月足利尊氏九州より攻め上りし時兒島備後守範長は兵を率ひて之を迎へ官軍と共に奮戰せしが多勢に無勢にて戰利あらず遂に主從六騎となり、逃れて辻堂に入り、先づ潔く腹切つて自害し果てし事太平記に見ゆ。當所は卽その自刃の場所と古來傳へられし所にして六騎塚と稱せられ嘉永三年左和田清左衞門範一の建設せる總長三米許の一石碑を立つ。



（上）六騎塚

（下）兒島範長墓碑



松ノ根

曾根ノ松

印南郡曾根町縣社天滿神社境内

宇治電鐵　曾根驛北約半丁

社殿の横に立ち横枝幾段にも長く延び樹勢盛なり、樹の高さ約一〇・五米。主幹は地上約一〇米餘にして東北に屈曲し、幹の下部より出ずる太枝は四本ありて各東方、南方、西方、東南方へ向ひて延長し廣大なる枝張りを示し天然の奇觀を呈せり。

古來高砂の松、尾上の松と共に名松として名あり。

（大正十三年十二月九日内務大臣指定　天然紀念物）

（縣報告書　第二輯參照）

印南郡

（むぎりよ方西）墳　古山場壇

壇塲山古墳

飾磨郡御國野村大字國分寺

山陽線　御着驛直ぐ北約六丁

耕地中に營造せられたる一大墳丘にしてその形は所謂前方後圓形を示し、その大さを略測するに縱徑約一四〇米、横徑八二米、環濠の巾一二・七米乃至二一・八米、後圓部高さ約一〇米濠外周圍約五三一米を測る。後圓部頂上に於て石棺蓋石露出せり。大さは長さ二・七米廣さ一・二米許にしてその形狀より推して組合せ式の長持形石棺なるを知るを得べし。前方部には天滿神社が奉祀せられあるためいさゝか原狀を損ぜるも全體としてよく舊觀を存し、縣下屈指の大古墳として最も注目に價するものなり。

（大正十年三月內務大臣指定　史蹟）

（縣報告書　第二輯參照）

後圓部頂上に於ける石棺の露出

檀場山第三古墳（小山古墳）
（南方より望む）

壇場山古墳

第一古墳　飾磨郡御國野村大字國分寺字林堂

第二古墳　同　字西ノ久保

前方後圓の主墳の傍にあり、陪塚なるべし。

第三古墳（小山古墳）

同　字山ノ越

壇場山古墳の北方約一〇〇米許にあり。現在にては封土の北半部を著しく削り取られて形を改めたるも南半の部分は原形を止めて整美なる方形を呈せるは特筆に價す。その大さ南邊にて五〇・六米北邊にて四九米を測り高さは七〇・二米あり、頂上に組合せ石棺の露出を見る。明治年間こゝより古鏡を出せり。

（大正十年三月三日内務大臣指定　史蹟）

（縣報告書　第一及第二輯參照）

播磨國分寺阯

飾磨郡御國野村大字國分寺字谷

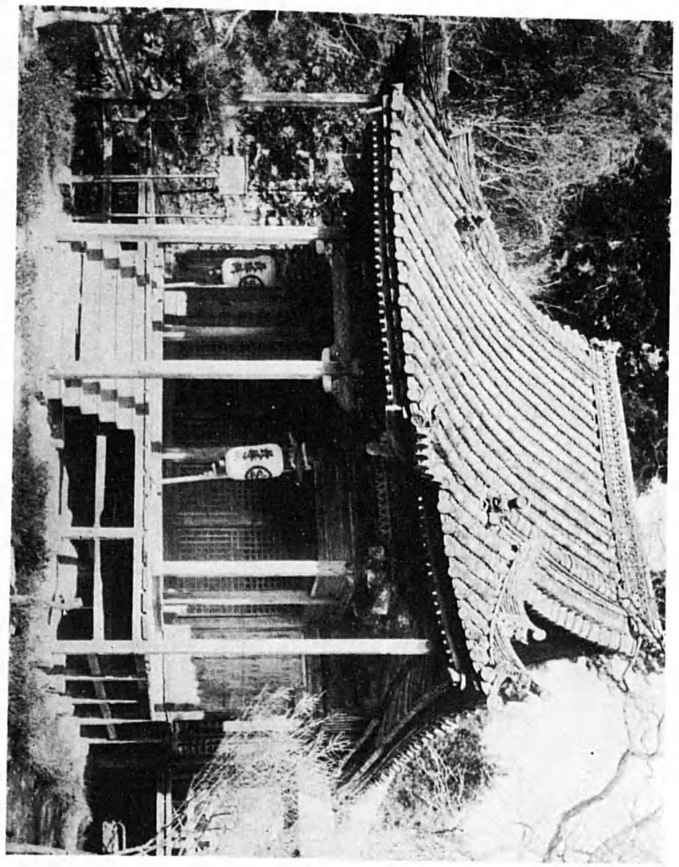
山陽線　御着驛西北約八丁

聖武天皇の天平十三年、國家鎭護佛法興隆の勅願によりて國毎に造立せしめ給ふた國分寺及國分尼寺はその後多くは廢絶して今遺阯を止めるのみの狀態になれり。播磨の國分寺も亦その例に洩れず、今松林中に東塔の礎石遺存す。礎石の配置は一側に四個を有し計十二個內側に四個中心に一個合計十七個あり。方九米餘を測り往時の壯大を想はしむ。間々附近の田圃より創建當時の古瓦の出土を見る。現時の國分寺は傍にあり、滯主池田公の再興にかゝり眞言宗多聞派に屬す。

（大正十年三月三日內務大臣指定　史蹟）

（縣報告書　第二輯參照）

石礎阯塔大寺分國播



（物築建護保別特）堂本寺勅彌

華山天皇臨幸地

飾磨郡菅野村字坪

山陽線　姫路驛北西四里餘（乘合自動車の便あり）

天臺宗彌勒寺は書寫山圓教寺の開基性空上人の隱棲且示寂の地なり。上人は元三大師良源の高弟、高德の聲四方に聞ゆ。寛和二年、華山法皇は書寫山に御幸ありて親しく上人の教をきかせられしが長保四年再び此の地に行幸御聽問あり。國司に勅して彌勒堂を建立せしめ給へり。

其の後本堂は罹災し燒失せしも康暦二年赤松義則、上人の高德を慕ひて諸堂を再建せり。之卽今日の建築物にしてよく南北朝時代の遺構を存し、國寶建造物なり。

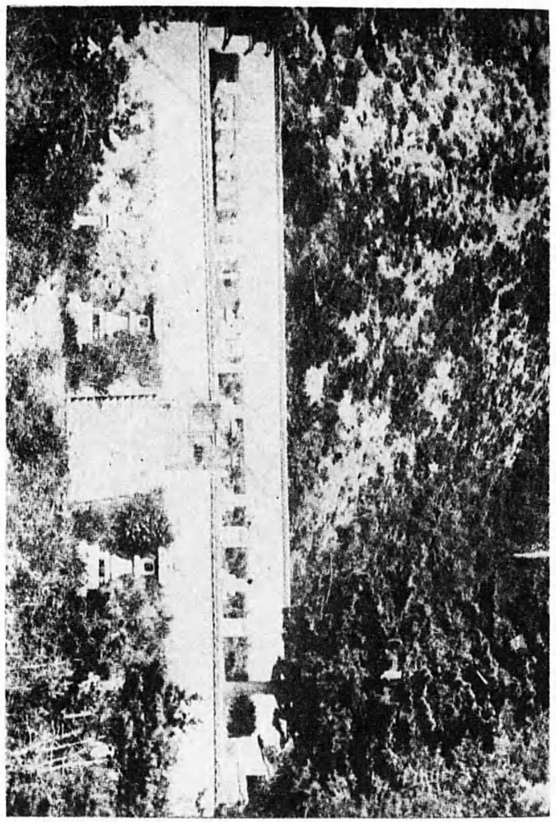
河合家墓所

飾磨郡糸引村

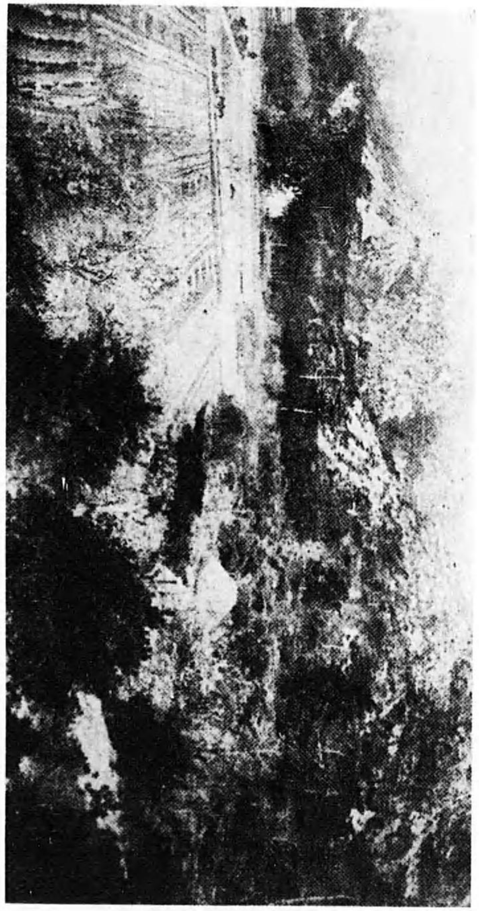
宇治電鐵　白濱驛北十五丁

仁壽山校阯所在地の西南梅ヶ岡にあり。文政四年道臣が藩主忠實より仁壽山を賜はりし時、墓地をこの地に卜して營みしもの、四方土塀をめぐらし中に三段を築き中段以北に河合勘解由左衞門定恒夫妻以下河合一家の墓碑十五基を祭れり。

河合氏は代々姫路藩の家老職にあり、藩治に功績を擧ぐる事著しく藩主並びに治民の信任厚く或は經濟に或は學問に治績見るべきもの多し。



所墓家合河



阯　校　山　藩　仁

仁壽山校阯

飾磨郡糸引村

宇治電鐵　白濱驛北十五丁

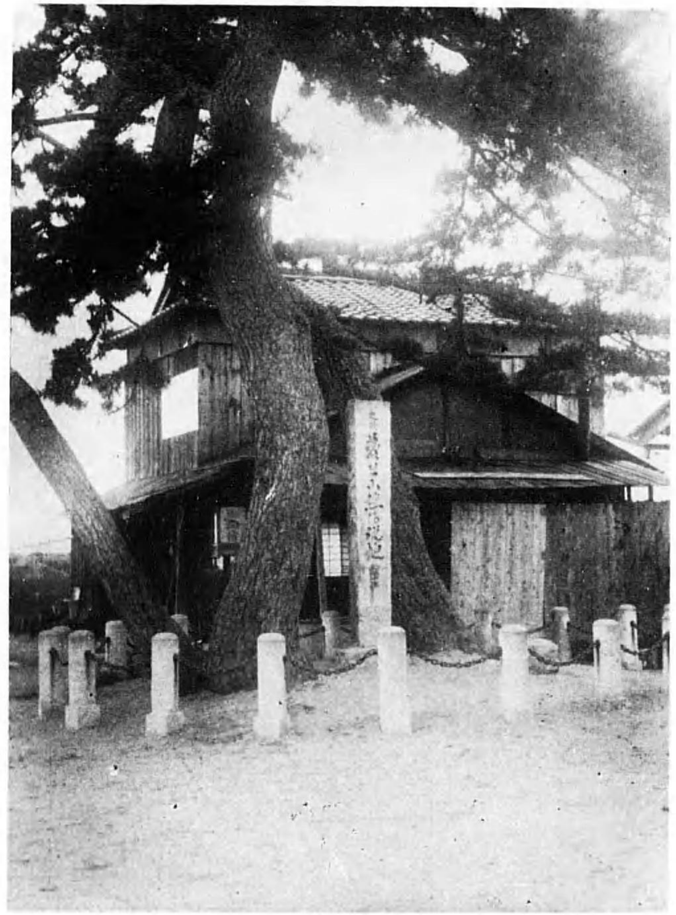
文政二年十二月姫路藩主池田忠實公は城の南方なる幡下山を河合寸翁に賜ひ仁壽山と改稱せしめしが、同四年正月に到り寸翁はこの東南麓麻生山と相接するの地に校舍を新築し仁壽山黌と稱せり。而して菅野眞齋、近藤抑齋を教授とし尙頻に當時の碩學を招聘せしかばその名聲頓に上れり、藩主又藩の子弟を選拔して在學を命じ敎を受けしめたりと云ふ。時幕末にあたり志士學者との往復も行はれ賴山陽亦數々此處を訪ひ敎授等と交歡せり。天保十五年廢校となる。

菅公小憩傳説地

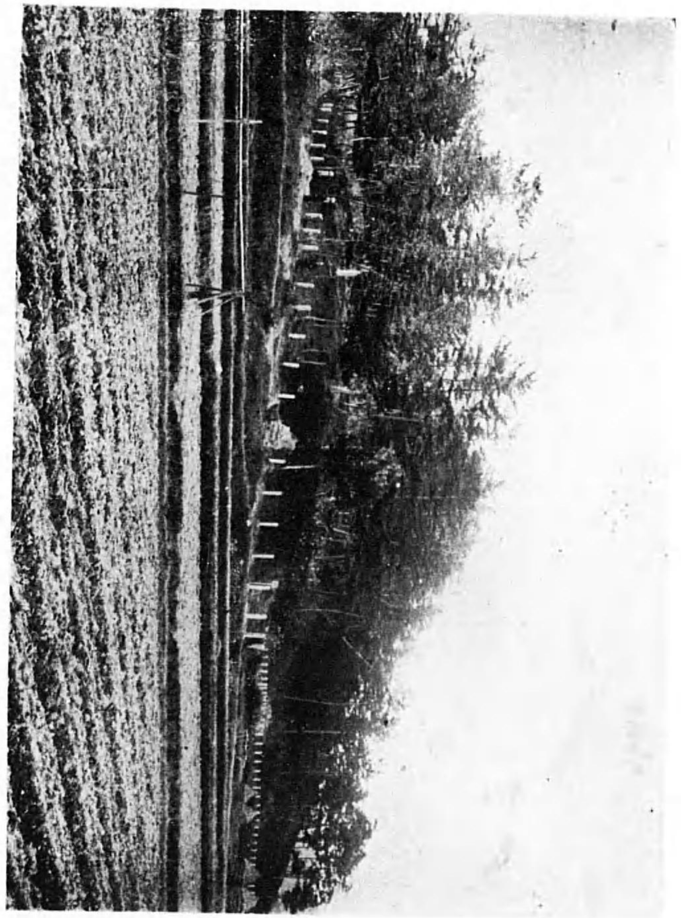
飾磨郡津田村

播但線　飾磨驛より西南約三丁
宇治電鐵　飾磨驛より西南十丁

津田思案橋の傍に古松數株生ひ繁れる淨域あり。古老の傳説に依れば延喜の昔菅原道眞公讒に依りて筑紫へ左遷され給ひし御道すがら此の津田の細江の地に船泊り上陸せられたる時御坐すべき敷物なかりしに依りて船夫等纜を渦巻形に敷き參らせしに菅公此の上に坐して暫く憩はせ給ひし所と云ふ。現在は津田天滿神社の御旅所なり。



菅公小憩傳説地



片山古墳

神崎郡中寺村土師字片山

播但線　溝口驛西南約五丁

片山と稱する一獨立小丘上に一つの前方後圓墳と四つの圓墳とありて一古墳群を形成せり。前方後圓墳は山頂に營造され、全長三二・七米南面す。圍繞するに埴輪圓筒を以てせる形跡あり。

先年發掘の事ありて祝部土器等の遺物を出だせり。

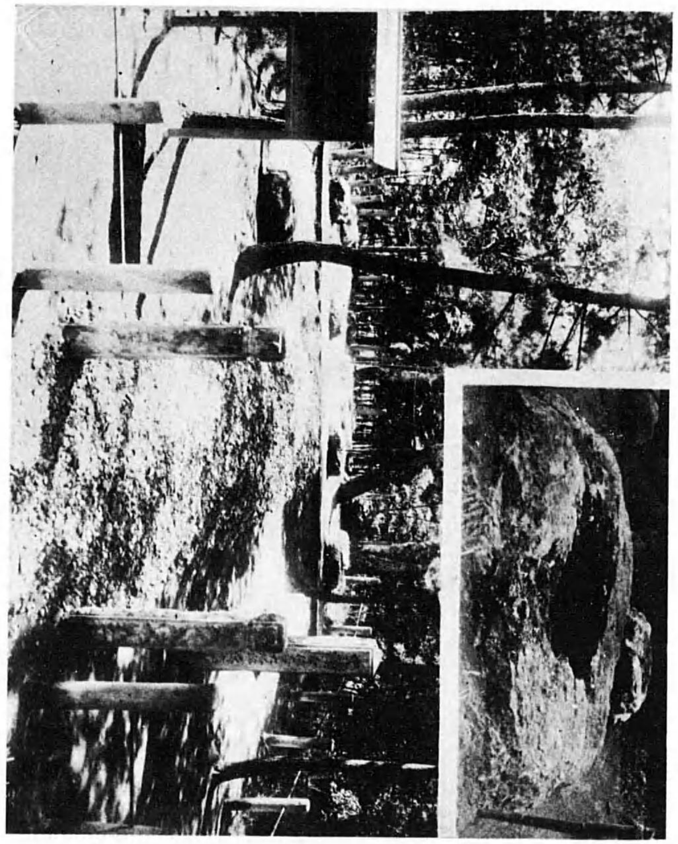
太子堂阯

神崎郡中寺村溝口字聖徳山

播但線　溝口驛東一丁

推古天皇の十四年勅賜の水田一千町の費を以て聖徳太子が建立あらせられたる斑鳩聖徳山圓覺寺の址なり。天慶年間藤原純友の爲災せられたるが後延寶三年滿善和尚謀つて太子堂を建立し僅かに遺蹟をつぎ今日に到る。

現に礎石を存す、之卽ち太子堂多寶塔の阯なりと。



瓢塚古墳

揖保郡勝原村丁

山陽線　網干驛東方十五丁

耕地中に營造せられたる巨然たる前方後圓墳にして環濠を缺き後圓部の一部を損せるの他ほゞ完全に現形を遺存せり。略測するに前方部三六・三米、後圓部の徑五四・五米、全長一〇一・八米に及ぶ。高さ後圓部にて五・一米。封土上雜木及竹繁茂し遺物等の發見なし。播磨南部の古墳墓中屈指のものなり、墳の後方の山麓に多數の横穴式古墳あり。卽この地一つの古墳群をなせるを知る。

瓢塚古墳全景（西方よりを望む）

同　上（前方よりを後圓部を望む）

峰相山寺阯

揖保郡太市村石倉字峯相

姫津線　太市驛北約三十二丁
姫路より山陽自動車會社バス　石倉下車北約二十二丁

峰相山は太市村字石倉の北峰にして伊勢村余部村に跨り書寫山の西約四粁に位置す。山中に雞足寺、一に峰合寺と稱する一寺あり、新羅王子の開創と傳ふ。舊時播磨第一の大伽藍なりしが貞觀中に及び早く頽廢し後再興の事ありしも貞和の頃既に一社六七坊を殘すに過ぎず。天正年中太市鄉民の一揆に依りて堂舍佛閣悉く燒亡し全く廢阯と成れり。

德道上人遺蹟

揖保郡太田村矢田部字小倉

山陽線　網干驛北十丁又は播電立岡下車東二丁

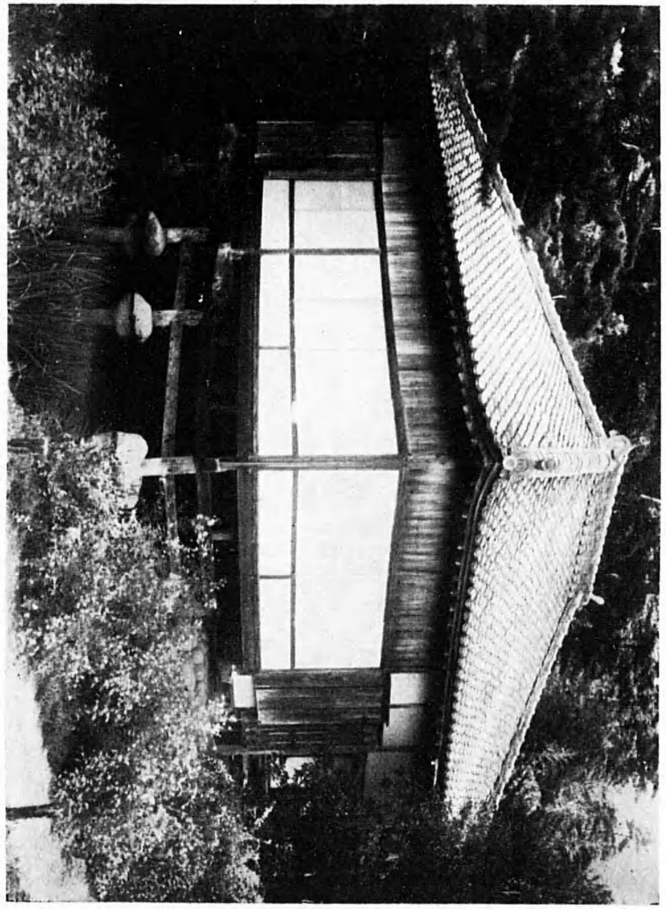
德道屋敷と稱し德道上人誕生の地と傳ふ。上人は行基に法相宗を受け、役行者の眞言教を行し大和國長谷寺の創建者道明に師事して同寺建立に與りて力ありき。

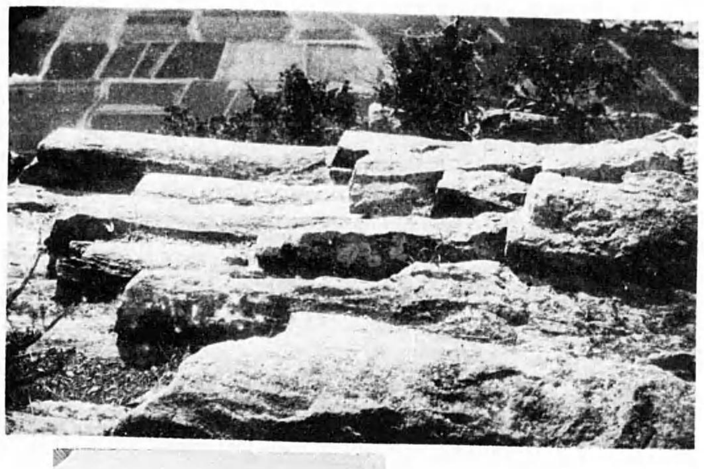
聚遠亭

揖保郡龍野町

姫津線　本龍野驛西約八丁

龍野町臺山の麓に位置す、前に揖保川を望み、遙かに播磨灘の遠景を收め眺望絶佳誠に景勝の地を占む。亭は茶亭にして寛文年間脇坂中務少輔安政、信州飯田より移封され新に常住の邸をこの位置に營みし時瀋邸の一部として建築されしものなり。聚遠亭の名は松平樂翁公の名付くる所なりと。後世の修補ありて舊狀を損せるは遺憾なるも池水にのぞみ、數寄の建築たり。今町の管理の下にありて公園となれり。





（上）鶴嘴山頂ニ於ケル岩脈

（下）同　全　景

烏崎ノ屏風岩

揖保郡越部村嘴崎

姫津線　越部驛北約一丁

越部村ニ神岡村ニノ村堺に鶴嘴山あり。青白色の凝灰質石英粗面岩より成り略南北に走り、西に向つて五十度以上の角度をなして揖保川の清流に接せり。石英安山岩の一大岩脈は西傾斜面に露出す。風化作用に對し、この部分は母岩より硬かりし爲屏風の如く突出するに至り天然の奇觀を呈せり。里人稱して屏風岩ニなす。この附近風景絶好、夏季遊樂者少なからず。

（昭和六年十月文部大臣指定　天然紀念物）

（縣報告書　第三輯參照）

明治天皇御駐輦碑

揖保郡神部村西條

山陽線　龍野驛東國道に沿ひ六丁

明治天皇御駐輦の碑

赤穗郡船坂村梨ヶ原中溝

山陽線　上郡驛西二里、三石驛東五十四丁

明治天皇御駐輦紀念碑

（一）赤穗郡有年村東有年字町の南

山陽線　有年驛西約十二丁

（二）赤穗郡有年村大字西有年馬路

山陽線　有年驛西一里

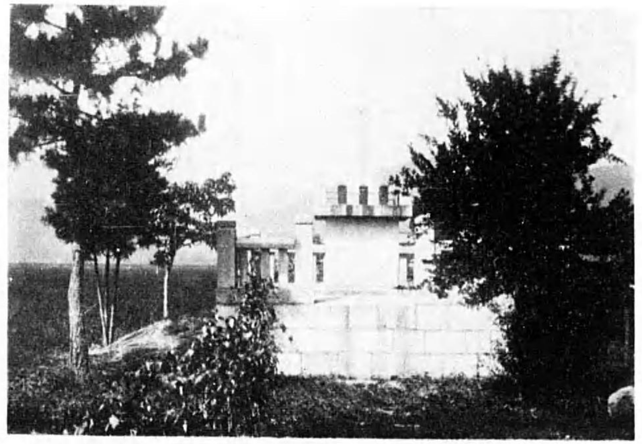
明治天皇小休所

赤穗郡若狹野村入野

山陽線　那波驛西方十五丁（自動車の便あり）

明治十八年七、八月の交、明治天皇陛下には折柄の暑氣をもいとはせ給はず西國御巡幸の儀を行はせ給ひ親しく民草の生活を覽し給へり。而してその行幸の御歸途本縣

下山陽道も御通過の光榮に浴せり。卽八月八日早朝岡山縣下より陸路入御、國道の沿道に車駕を拜せんと來れる民の奉迎をうけられ西行されて同日夕、姫路の行在所に入らせ給へり。此の日陛下の御小休所及び御晝休所となるの光榮を得たる地は永くこの聖蹟を紀念せんが爲に各々の地に記念碑の建設、或ひは御小憩の家屋保存の事等行はる。右記の四個所は卽それらなり。



（上）有年村明治天皇御駐輦記念碑

（下）船坂村明治天皇御駐輦之碑

大石良雄宅阯

赤穗郡赤穗町

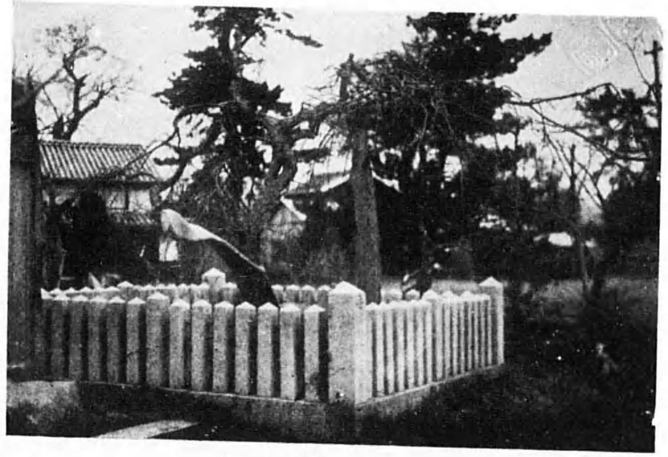
山陽線　有年驛經由私線赤穗線赤穗驛下車南十丁

赤穗四十七士の義擧は我が武士道の精華たり。而してその盟主たる大石良雄の芳名は國民の欽慕の對象として史書文藝を通じて最も國民に親しまれつゝあり。彼の宅阯は赤穗城大手門内にあり。今縣社大石神社の境内の地にあたる。邸宅は正保二年淺野長直入部の當初より元祿十四年淺野家斷絶まで大石氏の居宅なりしが、その後大明年間に及び類燒の厄にあひ、今その長屋門と庭園を遺存するのみなり。門はその大さ間口二六・六米奥行七・八米にして安政三年の改築にかゝる。園内に一樹の枝垂櫻あり大石遺愛の櫻と傳へ、良雄の手植になると云ふ。

（大正十二年三月内務大臣指定　史蹟）

（縣報告書　第二輯參照）

大石邸長屋門



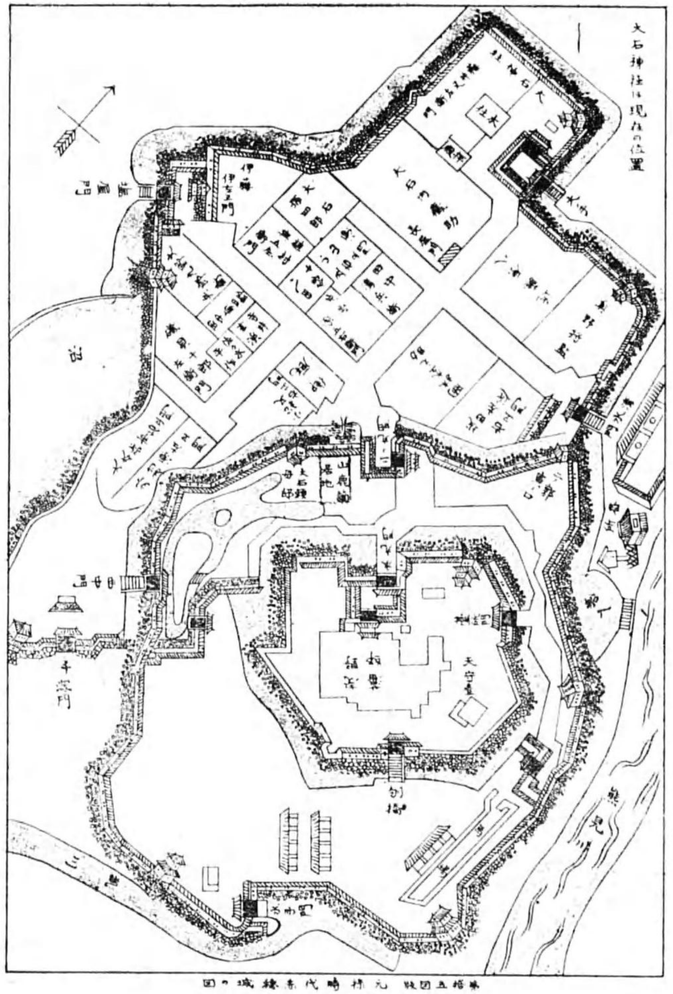
大石遺愛ノ櫻

山鹿素行謫居地

赤穗郡赤穗町

山陽線　有年驛經由私線赤穗線赤穗驛下車南十一丁

山鹿流兵學の祖として又儒學を以て名聲籍甚なりし山鹿素行先生は淺野長直の招聘に應じ承應元年より赤穗に來れり。住する事九年、万治三年致仕す。後罪を幕府に得て此の地に謫せらる。寛文六年配流同十一年三月許されて江戸へ歸る。此の再度の赤穗滯留中、藩の子弟を敎化する事少なからざりしは言を俟たず。後日かの元祿の義舉ありたるは一にその感化の所產なりと云ひ得べし。素行の謫居地は之を明かにすべき舊記を缺くと雖傳へによれば、國老大石賴母邸の後邊にありきと。賴母の邸は赤穗城二の丸西北の一隅に住す、よりて今日この地の西隣の地を卜し素行先生の記念碑を建てその遺德を記念せり。



元祿時代赤穗城の圖

瓜生羅漢石佛

上　　同

瓜生羅漢石佛

赤穗郡矢野村瓜生

山陽線　那波驛北二里半（乘合自動車の便あり）

矢野村役場の北方瓜生字鍛治屋の俗に羅漢溪と稱する樹木鬱蒼たる溪谷に沿へる石窟中に一群の石佛あり。窟は東北に面し幅七・七米高四米乃至五米を測る、石佛は何れも六〇糎乃至一二〇糎前後の岩石に陽刻されたる釋迦如來像、文珠普賢兩菩薩及十六羅漢像にして釋迦像を中心に左右に九躰宛安置さる。岩石磨滅して舊態を損ぜるものあるも、比較的完全に遺存してその表現に於て優秀なるものも少なしこせず。その製作年代は不明なるも足利中期を降らざるものと推考され、石佛として注意すべきものなり。

赤穗郡

（縣報告書　第九輯參照）

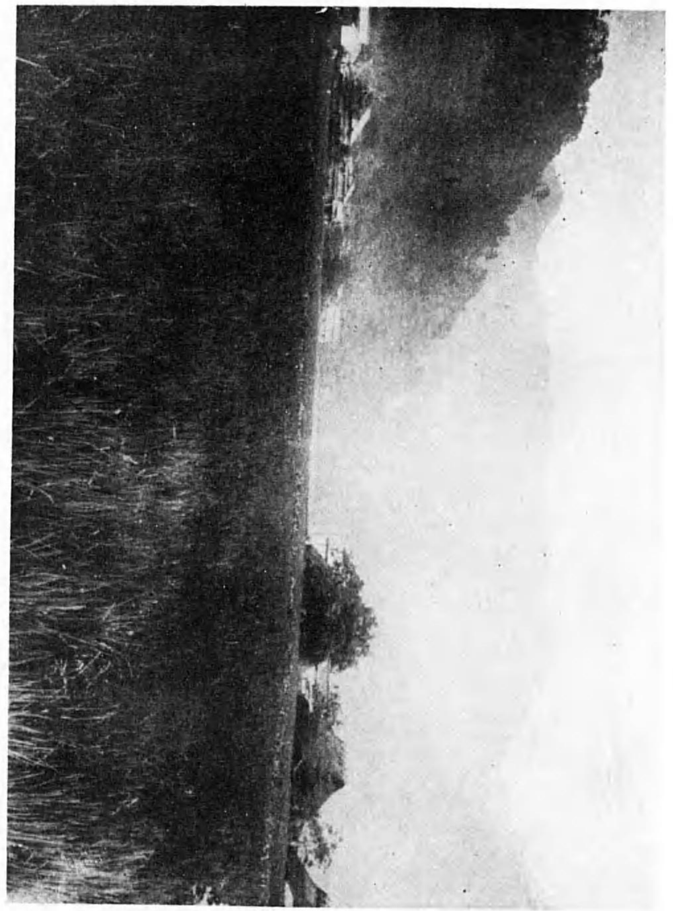
白旗城阯

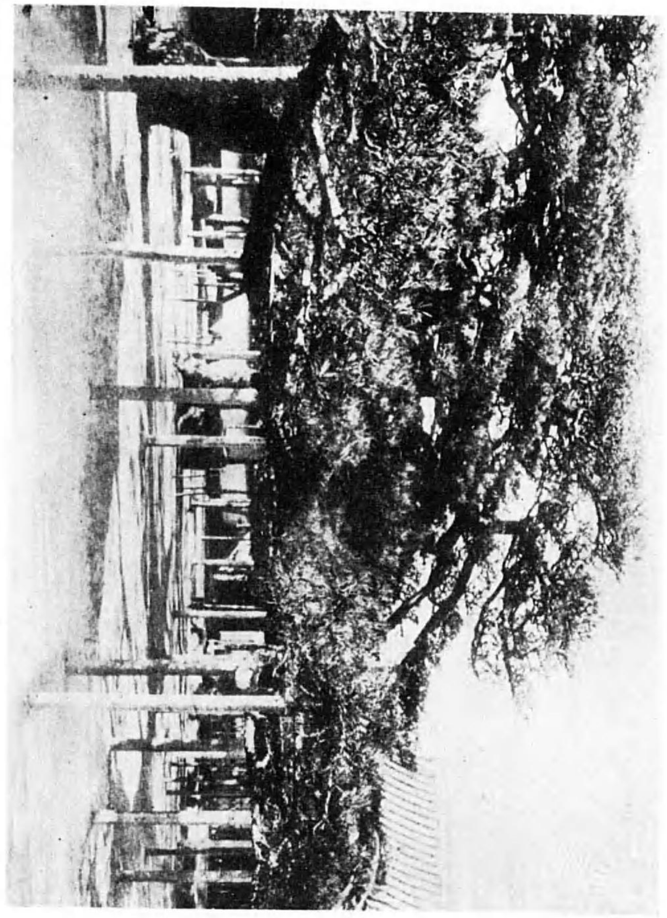
赤穗郡赤松村赤松

山陽線　上郡驛下車北、山麓迄四十五丁（自動車の便あり）
山麓より城阯まで十八丁

播州四大河の一なる千種川の溪谷は我國史上の大豪族の一たる赤松氏の發祥の地なるを以てこの溪谷に沿ふて赤松氏隆盛時代の史蹟少なからず。白旗山城はその一にしてこの川の東岸に位置し川を隔て、西北にある苔繩山城と共に城塞として中世の戰史に樞要なる位置を占むるものなり。就中此の城は西國街道に對する押へとして屈强の位置にあり、新田義貞が延元三年尊氏を西國に追討せんとしてこの城に於て行手をさえられ遂に攻略なし得ずして退きし事は史上顯著なる事なりとす。

（縣報告書　第六輯史蹟第三參照）





松のりごな石大

大石なごりの松

赤穂郡赤穂町花嶽寺境内

山陽線　有年驛經由私線赤穂線赤穂驛下車南十一丁

花嶽寺は正保二年淺野長直公當地に轉封の時、龍田和尚の創立にかゝり、淺野家の菩提寺たりし所なり、山門内中央歩道をはさみ左右八・一八米の双樹の黒松あり。其枝の擴がり三・三アールに達し偉觀を呈せしも不幸先年枯死し今その枯幹を止むるのみ。この双樹は元祿四年大石良雄が母堂の菩提のため移植せるものにしてかの元祿の異變に會ひ赤穂退散の時、淺野公祖先及自己の祖の墓に參詣し訣別の情にたへずこの樹下にて低回久しうせるを以て「大石名殘の松」と稱し傳へたり。

（縣報告書　第三輯參照）

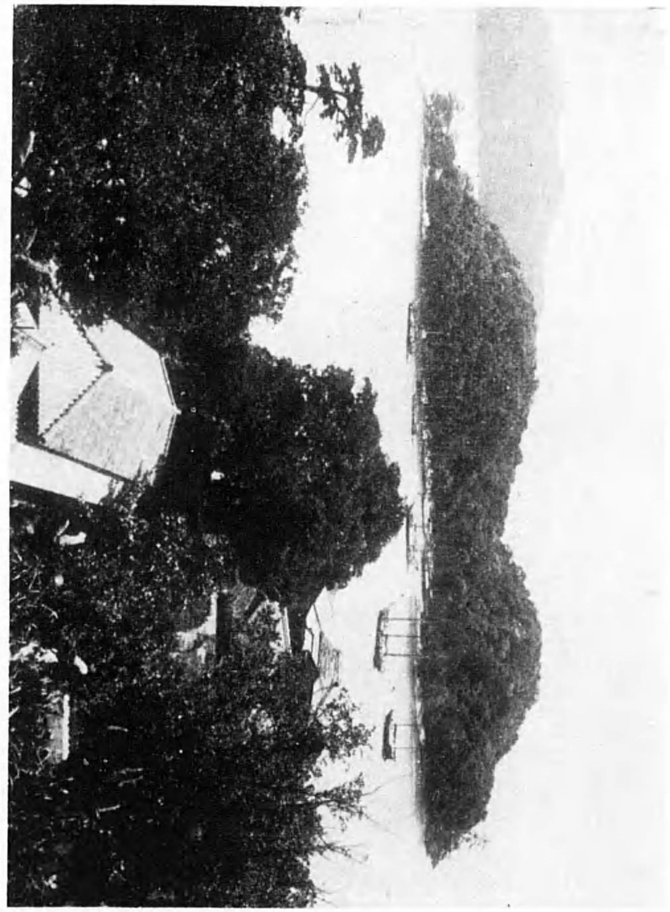
生島ノ樹林

赤穗郡坂越町

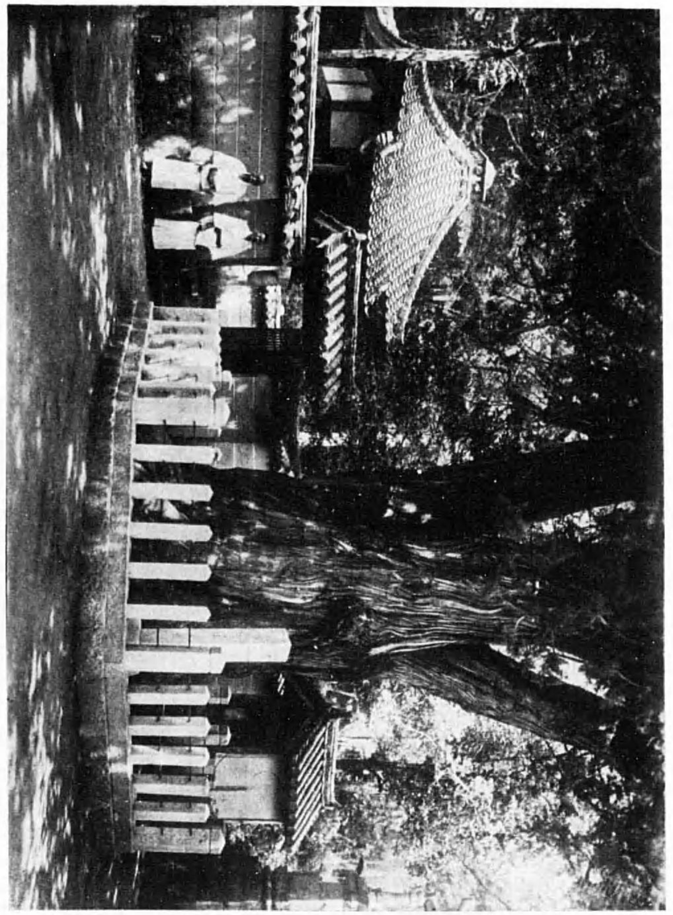
山陽線　有年驛經由私線赤穗線坂越驛東南十五町
（那波驛より乘合自動車の便あり）

生島は坂越港の南方内海灣内の一小島なり。陸を距る僅に三三〇米許、周圍約一・六粁に過ぎず。されど全島密林を有し、其大部分は常綠樹なるも之に混じて種々の落葉樹、草本あり特に蔓生植物に富めり。此の樹林は固より天然生にして比較的よく原始狀態を保存す。之此の島が古來神地として濫りに人の入るものなきために他ならず。僅か三三〇米を隔つる陸地の方面が殆んど赤松林を殘すのみの狀態となれるに對比してかく固有の草木を保ち植物分布上暖帶的特徵を失はざるを得たるは興味多きものあり。

（大正十三年十二月內務大臣指定　天然紀念物）
（縣報告書　第二輯參照）



生島全景



柏槇ノ寺境法

檜柏（びやくしん）

赤穗郡赤松村法雲寺境内

山陽線　上郡驛下車北三十丁（乘合自動車の便あり）

赤松氏菩提の寺として著名なる法雲寺境内にあり。樹勢旺盛、その大さ、地上一・五米にて幹の周圍七・五米、樹高一六・三六米あり。地上一・八一米にして二幹となり一幹は更に地上三米餘にして二幹となる。

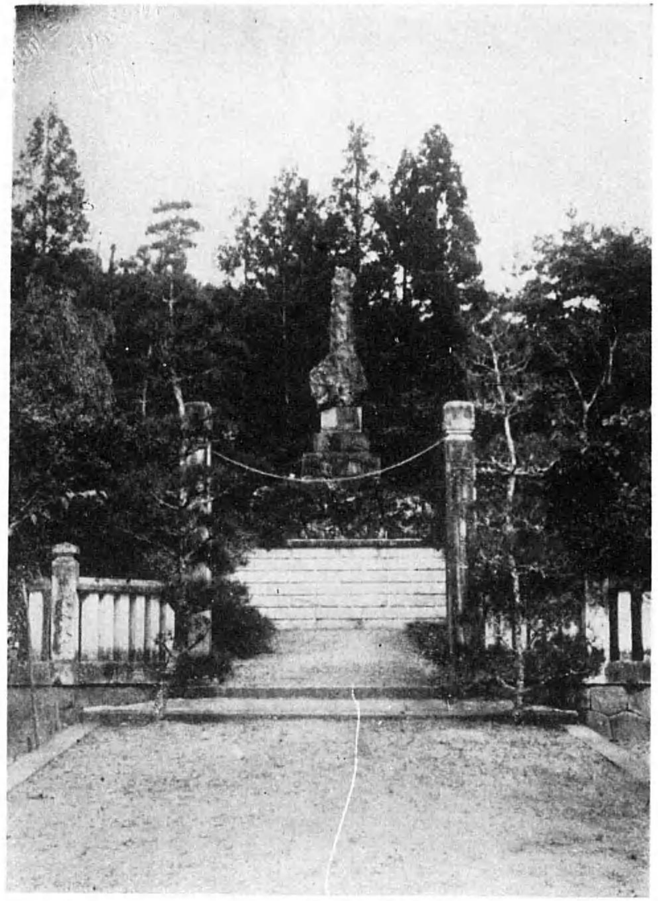
（縣報告書　第三輯參照）

後醍醐天皇御駐驛傳說地

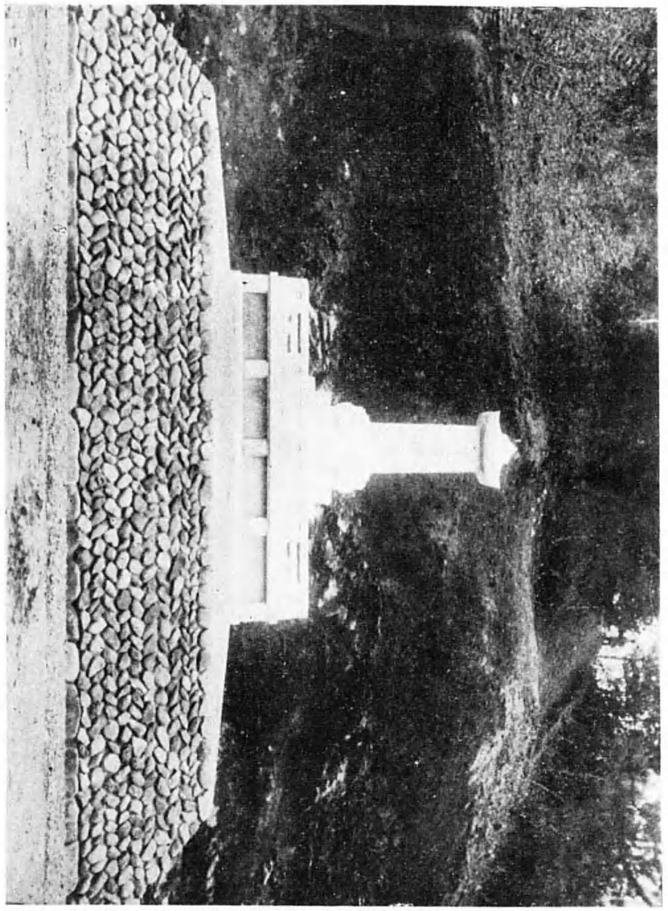
佐用郡佐用町

山陽線　上郡驛北約五里（乘合自動車の便あり）

元弘二年二月鳳輦隱岐へ御西遷の途次、此の地を御通過の砌御駐輦あらせられし所と傳ふ。碑は故有栖川宮殿下の御執筆にかゝり明治二十七年建設。



後醍醐天皇御駐驛傳說地



碑念記賦史坂杉

後醍醐天皇御通輦の碑

佐用郡幕山村

山陽線　上郡驛北六里（乘合自動車の便あり約一時間）

元弘二年三月後醍醐帝の鳳輦隱岐へ御西遷の途次この地を御通過遊ばされし事を記念する碑なり。殊にこの地は播美の國境にて舊作州街道の要地にあたり、かの兒島高德が駕を奪ひ奉らんとして待ち奉りし地なれば特に記念すべき地なるべし。

鹿ケ壺甌穴

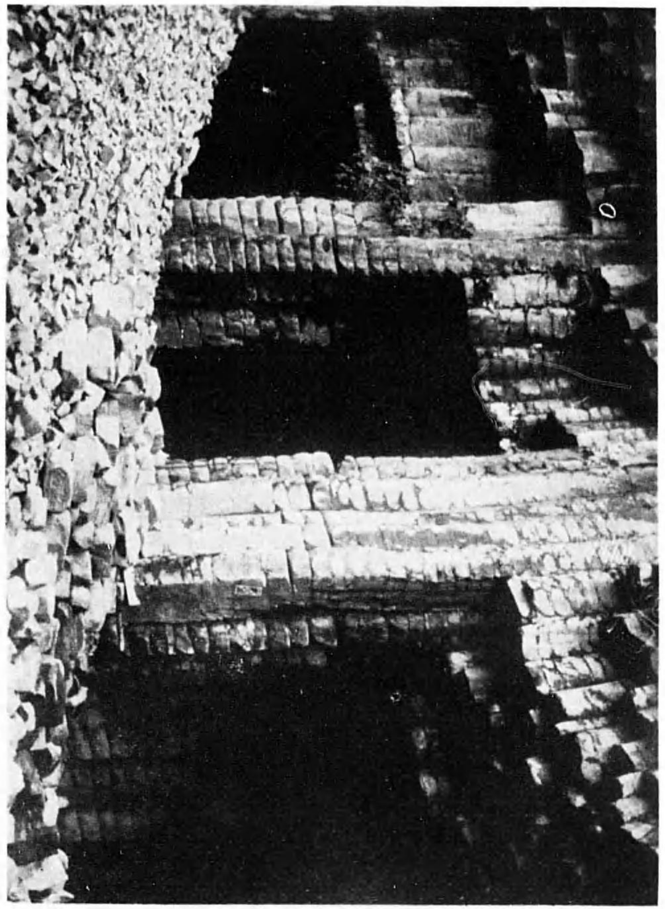
宍粟郡富栖村

姫路驛より山崎行バス、安志下車、北二里半

揖保川の支流たる林田川の水源は雪彦山の西部に發源して南流すること約四粁弱にして皆河村關に到り北村にて東方より流れ來る一小溪流を容る。鹿ケ壺甌穴は此の溪谷の上流にあり。關よりは五〇〇米にして至り得。現在大なるもの十個他に少なるもの數個存す。溪流の侵蝕作用にて石英粗面岩の岩石に生じたる圓孔にして、鹿ケ壺とはその最大なるもの、名稱なるも又以て全體の名ともなる。その大さ長徑七・七米に及び鹿の臥したる如きを以てこの名あり。

（縣報告書　第三輯及第八輯參照）

鹿ケ壺甌穴



理節狀柱の岩武玄洞武玄

玄武洞

城崎郡田鶴野村赤石

山陰線　玄武洞驛東二丁

圓山川の東岸、水面上約三〇米弱の所にあり。嘗て幕府の儒官柴野栗山この地に遊び、之に名付けて玄武洞と云ひ奇勝を天下に紹介してより其の名天下に普くなれり。四角乃至八角の石柱を以て成る大洞窟にして天井は峰窩狀又は龜甲紋をなし天下の一偉觀たり。之橄欖玄武岩の柱狀節理により生ぜるなり。全體の幅は約三五米にして略南北にならんで五個の洞窟ありしも大正十四年五月二十三日の北但大震災のために其一部崩壞して落石洞の前面に落下推積して偉觀を殺げるは惜しむべし。

（昭和六年二月文部大臣指定　天然紀念物）

（縣報告書　第三輯參照）

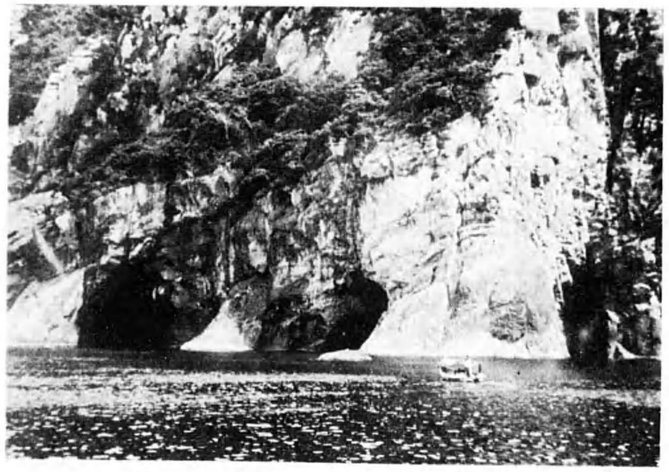
釣鐘洞門

城崎郡餘部村字御崎

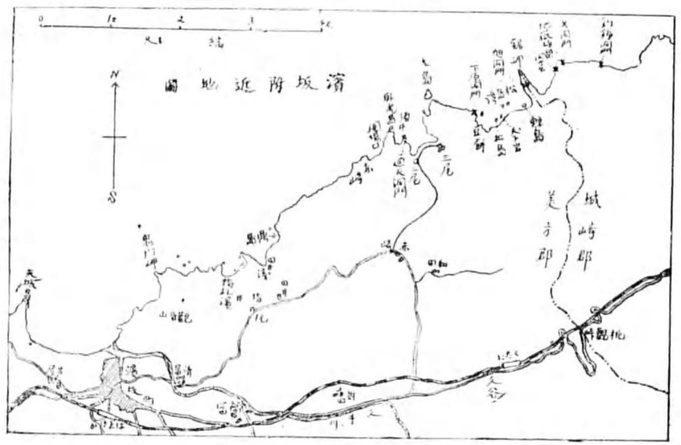
山陰線　鎧驛西約三十五丁及び濱坂驛下車同海岸より發動汽船の便あり

美方郡濱坂町以東の海岸は奇勝絶景に富み自然の營力の偉大にして人の意表に出づるものを思はしむるもの多し。釣鐘洞門亦かゝる天然紀念物の一にして大磊にあり。洞の入口は凝灰礫岩あれど内部に入れば石英粗面岩にして輝石安山岩之を貫通せり。蓋、此兩者の接觸面より海水の侵蝕を逞ふして此洞門を形成せしものならん。其入口は一五米弱にして甚しく高からざるも内部に入れば不思議に天井高く、高さ六〇米强と稱するも暗くして測りがたし。恰も大鐘の中に入れる如く聲を放てば轟然として反響す依つてこの名あり。海水の深さ約八米あり。

（縣報告書　第六輯參照）

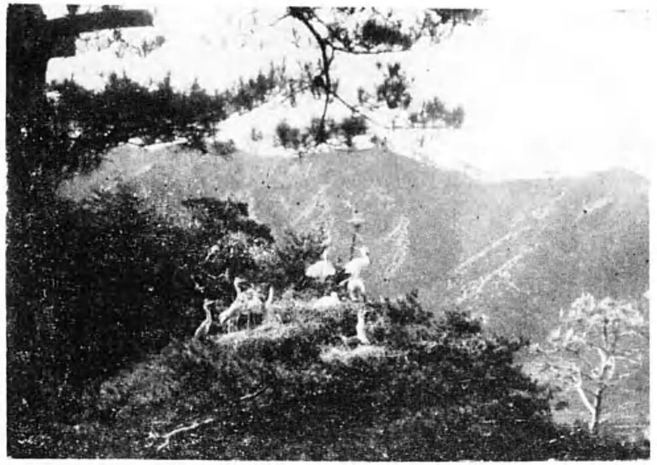


釣鐘洞門入口



濱坂附近地圖

出石鶴山全景



鶴山鶴の營巣

鶴山鶴蕃殖地

出石郡室埴村

山陰線　江原驛經由私線出石鐵道出石驛西方三町

鶴山はその名の如く古來鶴の蕃殖地として有名なり。但し此の地に棲息するは鶴にあらずして實は鸛なり。その形頗る鶴に似たるを以て鶴の一種と誤られ來りしものなり。鸛は維新前迄はよく保護せられ各地に棲息したりしが、維新後保護の制すたれ盛んに濫獵せられ次第にその跡を絶ち現今にてはこの地を除いては殆んど絶滅に歸せむにする情況にあり。此の地、今法により保護せられつゝあるはよろこぶべし。

鶴山にては年々鸛の營巣を見るべく、四五月の交には松上數丈の高き所に巢立てる雛の親鳥と翼交はせる風情を望むことを得。

（大正十年三月内務大臣指定　天然紀念物）

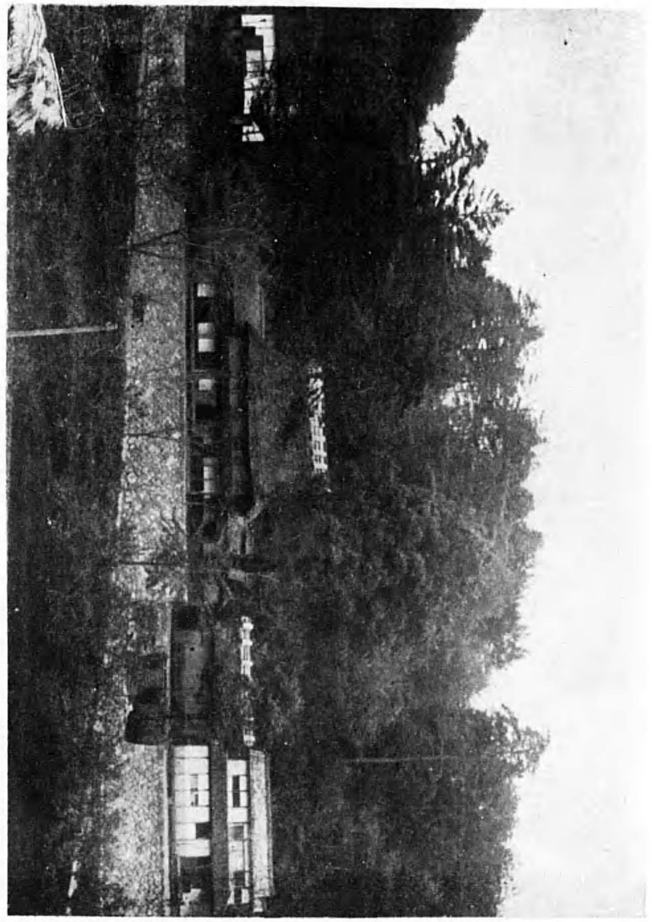
（縣報告書　第二輯參照）

青谿書院

養父郡宿南村

山陰線　八鹿驛北一里（乘合自動車の便あり）

青谿書院は但馬聖人草菴池田緋先生の私塾なり。先生は文化十年養父郡宿南に生る。幼にして俊敏、早く佛寺に入て勤行精進せしが後儒學に指を染め、遂に志を得んとして出門し、京都に出で、先づ相馬塾に入りて修業の道に格勤精勵し後塾を去り朋友の間に於て切磋し、數年の後自ら塾を開くに到りしが故鄉忘じ難くして歸山し、八鹿に立誠舍なる塾を開きしが又數年にして宿南に移り專ら故國の士弟の敎育に從事せられたり。之青谿書院にして人材傑士を輩出せしめたり。明治十一年に到る。今當時の建築遺存し又先生所藏の書籍を遺し往時の面影を存す。



青谿書院

妙見ノ杉

妙見ノ大杉

養父郡八鹿町石原字妙見縣社名草神社境内

山陰線　八鹿驛西三里（途中迄乘合自動車の便あり）

大杉は名草神社の三重塔前にたち地上約七米の高さに於て幹は二分し併立せり。樹元の周圍一三・六米幹の西北側に空洞を開くも樹勢旺勢にして實に杉の巨樹として有數のものと云ふべし。

（大正十三年十二月九日内務大臣指定　天然紀念物）

（縣報告書　第二輯參照）

大櫻（樽見ノ仙櫻）

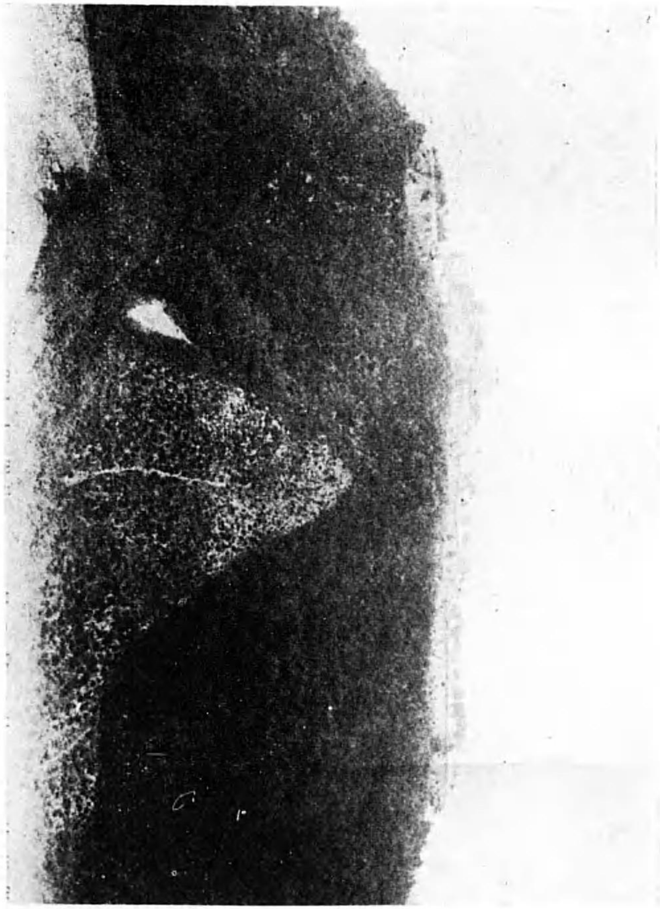
養父郡口大屋村樽見

山陽線　養父驛西南三里半（自動車の便あり）

山腹桑園中に聳立しその大さ樹高二〇米、地上一・五米の所にて幹圍五・一五米樹冠の擴り三・八ァールに達する一大櫻樹なり。縣下最大ニなす。枝に枯死する部分多く樹勢稍衰ふ。元祿頃樹勢最も盛んにして高さ一五米柯東西南北三六米に亘り花時に至れば皎々ニして白雲の如くなりしニ云ふ。

（縣報告書　第四輯參照）

櫻仙ノ見樽



竹田城

舟ノ宮古墳

朝來郡中川村桑市

播但線　新井驛北二十七丁（乘合自動車便あり）

古制整然たる前方後圓墳にして古來船山と稱し但馬國造船穗足尼の墳となりと傳ふ船穗足尼は開化天皇第三皇子彦坐王五世の孫にして國造本紀に定賜國造云々とありて諸所に治績少なからず、祭神として宗祀する所國内に多し。

竹田城阯

朝來郡竹田町

省線　竹田驛北約十八丁

一に虎臥城と稱す。嘉吉年中山名宗全の築城にかゝり其の臣太田垣氏代々是を守る天正年間秀吉の爲に太田垣滅され、赤松氏代りて城に據る。慶長五年赤松廣英罪を德川家康に得て自盡し、城やがて廢せらる。城は山頂に築かれ南北五〇〇米、東西一〇〇米、城櫓、天主閣、北千疊及南千疊の址を留めたり。

八代ノ大欅

朝來郡山口村字八代式内足鹿神社境内

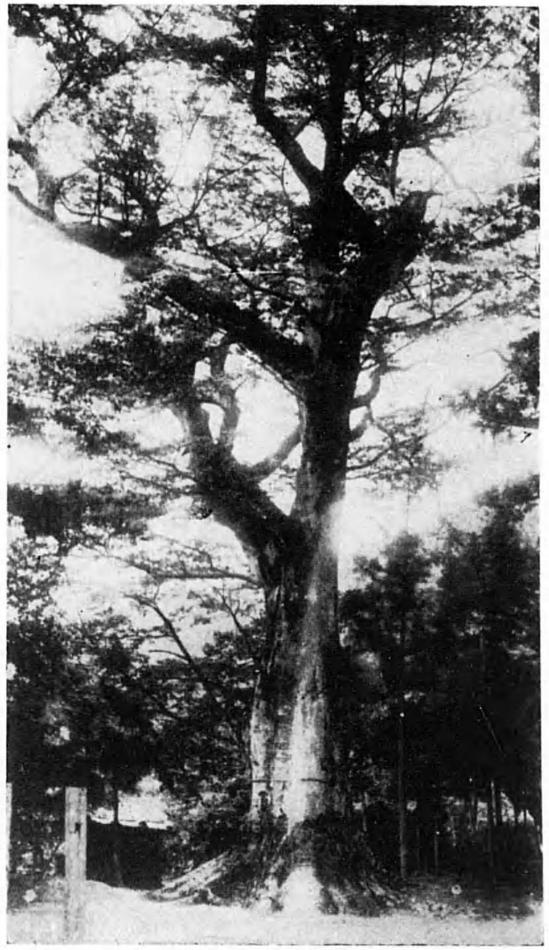
播但線　新井驛西北十八丁

根の上部廣く露出して根と幹との境界判然し難し、根廻り約一八米、根と幹との境界部にて周圍約一三米、高さ約二七米をはかる。

里人大金木と稱し靈木として之を畏敬し來れり。

（昭和三年三月二十四日内務大臣指定　天然紀念物）

（縣報告書　第五輯參照）



八代ノ大欅

玉林寺ノ垂櫻

枝垂櫻

朝來郡與布土村與布土字大谷玉林寺境内

山陰線　梁瀬驛南約二十丁

玉林寺境内東北隅にあり。縣下屈指の大垂櫻なり、梢頭其の他枝柯に枯死せる部分ありて近年樹勢稍衰ふ。大正九年以來保存會の設施ありて保護に勉めつゝあり。

地上一・五米の乾圍　三・五四米　樹高　一〇・五米　杉下　三・三米を測る。

（縣報告書　第四輯參照）

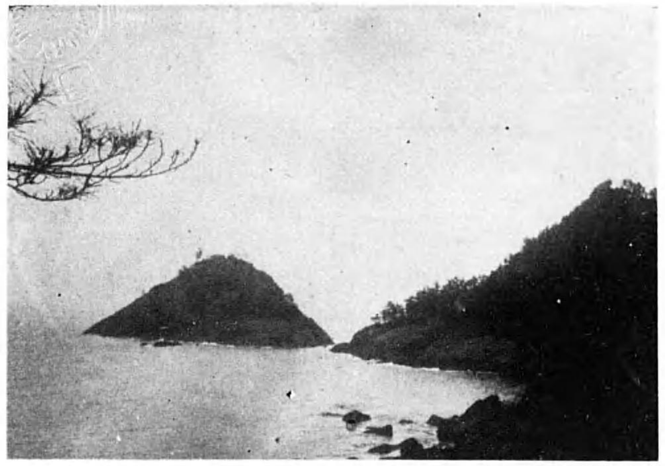
大島

美方郡濱坂町三尾

（山陰線濱坂驛下車同海岸より發動機船あり）

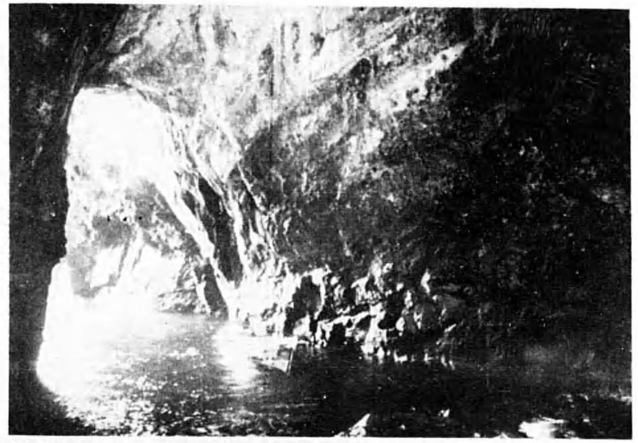
濱坂町の東、日和山の直北の一孤島にして高さ一九〇米、周圍約三〇〇米、其形鮑の甸へるが如きを以て一名鮑島と稱す。全島悉く曹達粗面岩の柱狀節理より成り多年海水の侵蝕を受けて大小の柱石、或は高く或は低く並列せる狀奇觀を呈す。島の東方に二條の輝石玢岩の岩脈之を貫通せり。

（縣報告書　第六輯參照）



大島の遠望

曹達粗面岩の柱狀節理



（上）下荒洞門

（下）諸寄西ノ洞門

山名公墓所

美方郡村岡町村岡

山陰線　八鹿驛北八里十七丁（乘合自動車の便あり）

舊村岡藩侯山名氏の墓所なり。山名氏は新田氏の後裔、宗全侯を以て中興の祖とす。義問公英邁にして藩治に力を致し治績頗る多く、産業大に興り交通又ひらく。維新の秋にありて義溥公藩主たり、佐幕勤王の兩統生じ世情騒然たる時毅然俗論を排して勤王派に與つて大政奉還を主張しよく大義を失はざりき。

諸寄東西洞門

美方郡西濱村

山陰線　濱坂驛西二十五丁

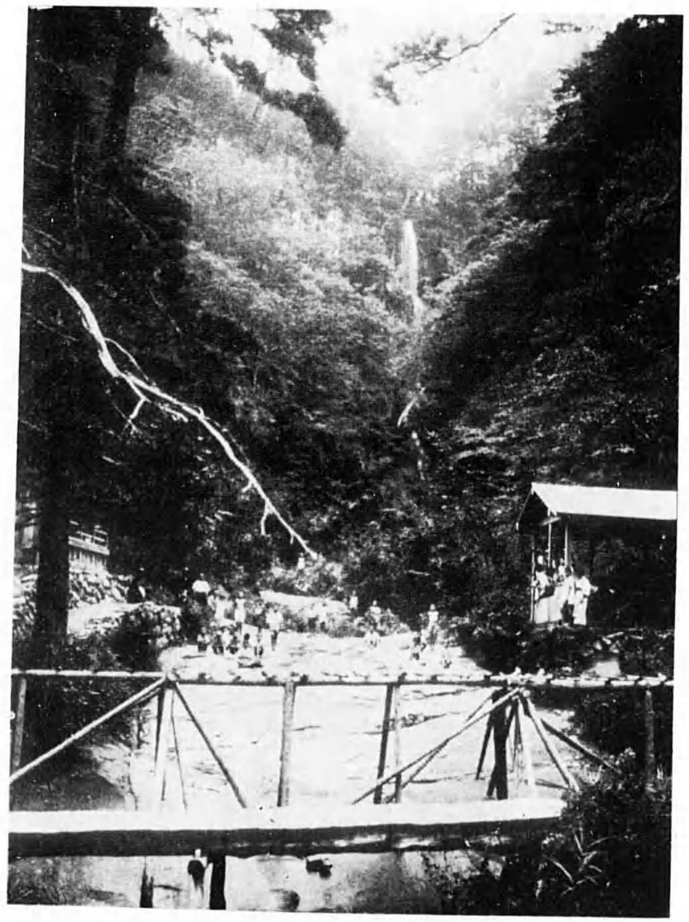
千賊岬海岸に在り、洞門をなし中に海潮を湛へ、小舟を通づることを得、奇觀絶景をなす。

猿尾瀧

美方郡兎塚村

山陰線八鹿驛西六里乘合自動車の便あり所要時間約三時間

山陰線八鹿驛より乘合自動車にて國道を西方に走る事二〇粁餘にして日影（美方郡兎塚村）に達す、此所より車をすて、徒歩にて東方約八七〇米にして、白布の垂るゝを見る。之猿尾瀧なり。九〇米の絶壁より落下する事三〇米一度中段の深淵に直下し再び六〇餘米の深谷に落つ。周圍は巨巖屹立し老杉蔭蒼ミ枝を交へ絶景眞に賞すべし。



猿尾ノ瀧

二間塚

二　間　塚

氷上郡春日部村多利

福知山線　黒井驛東二十五丁又は市島驛より三十五丁
（乘合自動車の便あり）

二間塚は前方後圓墳にして封土上雜木草繁茂し其の規模大ならざるも完全に現狀を遺存せり、尙同古墳は高貴の御陵なりと言ひ傳へ一般に尊崇せらる。鐵鎖を以て連接し保存を講ぜり。

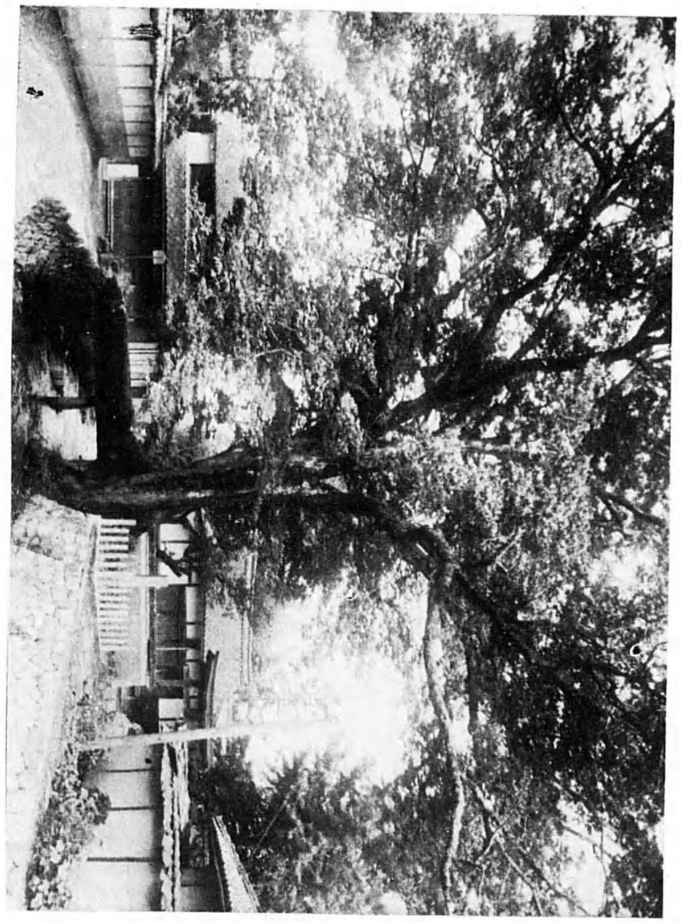
欅（木の根橋）

氷上郡柏原町縣社八幡神社境内

福知山線　柏原驛北四丁

八幡神社鳥居前柏原川河畔にあり。一大樹根延びて川に架し恰も橋梁の如きを以て木の根橋の名もあり。思ふに傍に在る木橋が土橋なりし時、根部次第に進出し遂に彼岸に達せしものならん。自然の戯れ以て珍とすべし。根橋の長さ六米、地上一・五米の幹圍七米、樹高約一五米を測る。

（縣報告書　第六輯參照）



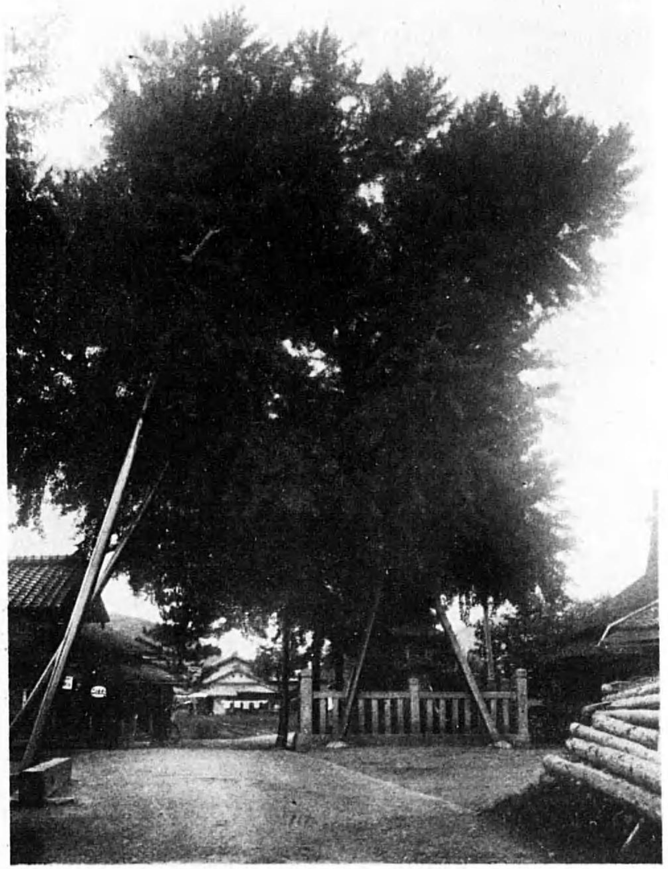
（橋根の木）　欅

公孫樹

氷上郡吉見村鴨神社境内

福知山線　市島驛東南十丁（乘合自動車の便あり）

古來神木と稱して衆人の信仰をあがめ殊に婦人の乳を祈る者絶えず。之所謂乳と稱する瘤狀突起の下垂するもの多きによる。目通周圍五・一五米、根の周圍二・七米、同巾七・五米、根の長さ八・五米、枝張三六米餘を測る。



吉見ノ公孫樹

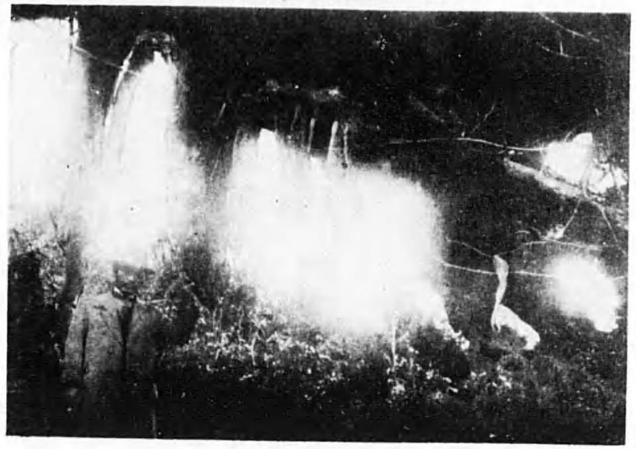
公孫樹

氷上郡神樂村大名草

福知山線　石負驛西北五里（途中迄乘合自動車の便あり）

足利時代赤松圓心の祈願所たりし常瀧寺の境内たりし地にあり。樹高一八米にして甚だ高からずと雖、周圍は頗る太く目通りの高さにて一〇米を測り、枝を廣く繁茂せり十數年以前火のために折れし爲なり。甚だ惜むべし。乳と稱する瘤狀突起の下垂するもの頗る多く大なるものは一・九米に達し或ひはのびて地に達し恰も氣根の支柱根の如き觀を呈し、一奇觀たり。乳汁の出ぬ婦人の信仰をあつめ、祈願のため參拜するもの頗る多し。

（縣報告書　第四輯參照）



（上）大名草ノ大公孫樹

（下）同　上ノ乳瘤

櫸ノ町井黒

櫸

氷上郡黒井町、兵主神社境内

福知山線　黒井驛北約三丁

高さ約三六米に及ぶ大樹にして幹の太さ目通りの所にて一六米を測る、高さ約九米の處にて六枝に分岐し其の内中央の一枝は既に腐朽し痕跡を止むるのみなれば殘りの五枝は恰も五指の如く天に向ひて直立せり。

一里塚

多紀郡八上村

福知山線　篠山驛經由私線篠山町驛東東南三十丁

（乘合自動車の便あり）

八上村八上内十念寺の麓約一〇〇米、縣道の北側に在り、昔時の交通施設の一たる道程標識の樹木を存したりしが二十五年前縣道改修の際破壊され現今其の形迹を止めず。

裸　榧

多紀郡日置村、村社八幡神社境内

福知山線　篠山驛經由私線篠山町驛東一里二十五丁
（日置行乘合自動車の便あり）

境内に三株の大なる榧あり、中央の一株は果實に石核狀の堅き內種皮を缺くを以て裸榧と稱せられ世界唯一の珍木なりとす。木の高さは約二〇米、目通の太さ凡そ四米なり、木の由來に關しては全く不明なるも普通の榧より突然變異によりて生ぜし一新種なるべきか。

傳說によれば建武の昔、足利尊氏丹波の國に下向の時、本社へ參詣したる折、僧榧の實を獻せしに尊氏その皮を去り之を神前に捧げ、我が武運長久にして大願成就せむときは此の榧成長して無皮の實を生ずべしと祈願せるよりかく成りと。

（大正十四年十月內務大臣指定　天然紀念物）

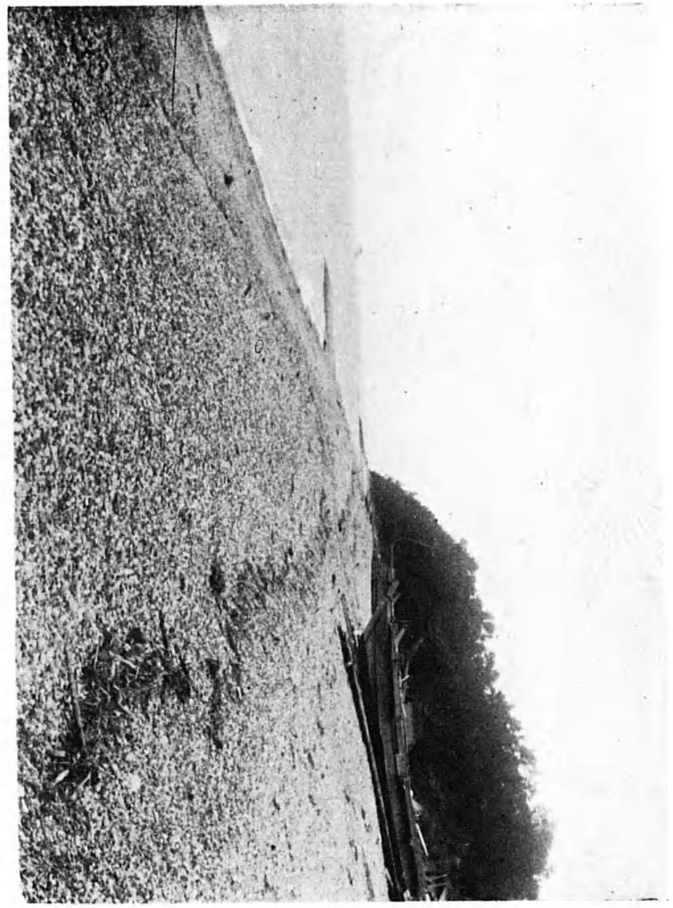
日置村ノ裸榧

五色濱

津名郡鳥飼村

五色濱は津名郡鳥飼村の海濱の總稱にして南部は筒飯の松原の北端、同村字奥の圓より、北部は佛崎に至る間延長約三粁に及び幅最も廣き處二二米、最も狹き處一三米に過ぎず。嘗て此の海濱全部に赤・白・黒・青・黄等の色彩を有する小礫が一面に堆積せしを以て此礫を五色石と稱し又此の海濱を五色濱と稱するに至りしなり。現今この五色の小礫を存するは南境より約一粁許北方より北部にして此石礫は風位潮流の關係上漸時北方へ移動する傾向を有すと云ふ。自然の巧緻は人工に如くものあるを思はしむ

（縣報告書　第六輯參照）

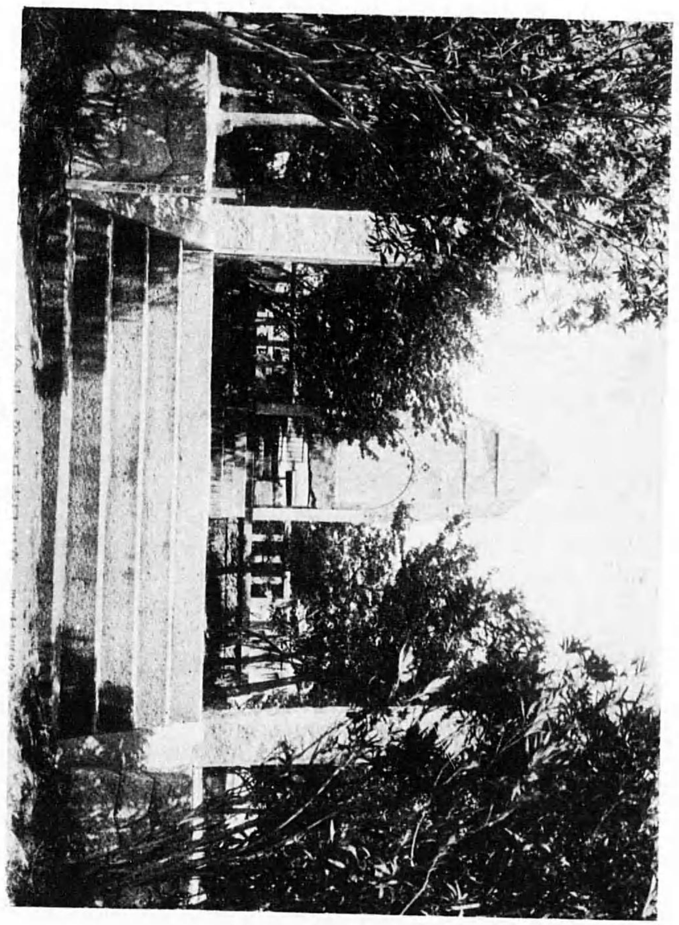


高田屋嘉兵衞記念碑

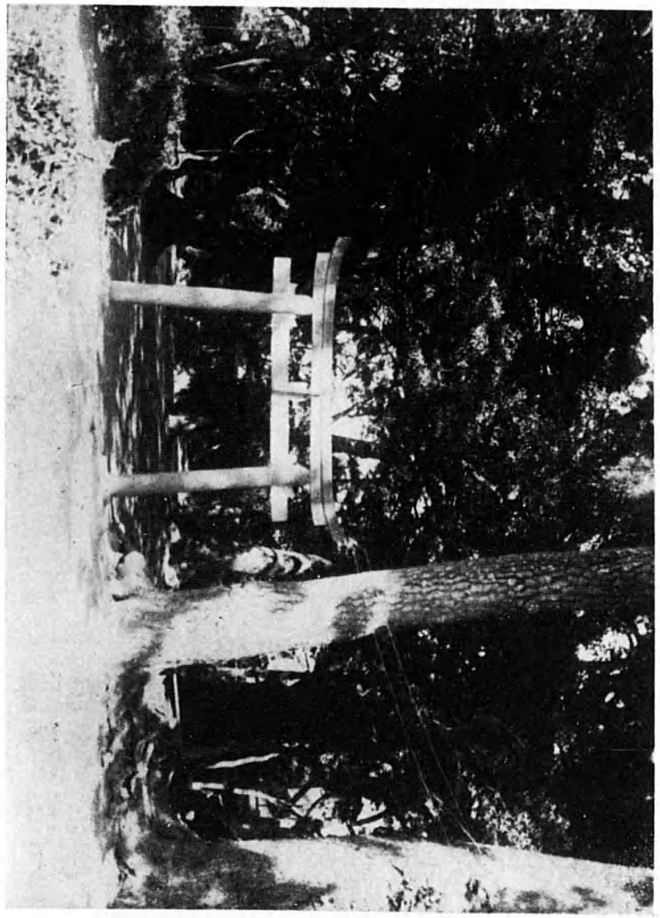
津名郡都志村森組字土井越

汽船都志港より四丁(洲本より五里乗合自動車の便あり)

幕末、國家内外漸く多事ならんとする時、幕命をうけて北海の交通商業開拓に活躍せる高田屋嘉兵衞は淡路の人なり。明和六年津名郡都志本に生る。少にして大志あり嘗て一廻船商の舟夫なりしが人に傭はるゝを屑とせず。諸弟を率ひて攝津兵庫に赴き て漕船業を營み、數隻の巨船を得て近海を航行し、殊に北海の遺利に着目して遠く家鄉を去つて邊地に住み遂に生命を賭して邦家の發展の爲粉骨摧身するに到れり。今出生地に於て翁の舊邸を本としてこゝに紀念碑を建てその偉業を偲ぶよすがとせり。



碑念記衞兵嘉屋田高



野邊宮

三原郡市村

私設淡路鐵道一本松驛西南約五丁

大樹の茂れる森中に一社殿あり、古來淳仁天皇を祀り奉る。天皇は天平寶字八年十月淡路へ御還幸に成り一院に幽居し奉ること續日本紀に見ゆるは此の地なりと傳へ、翌天平神護元年十月廿三日崩ぜられしを以て地人其の遺阯に因み天皇の御靈を奉祀し野邊宮と稱し奉り今日に到れり。

淡路國道松並木

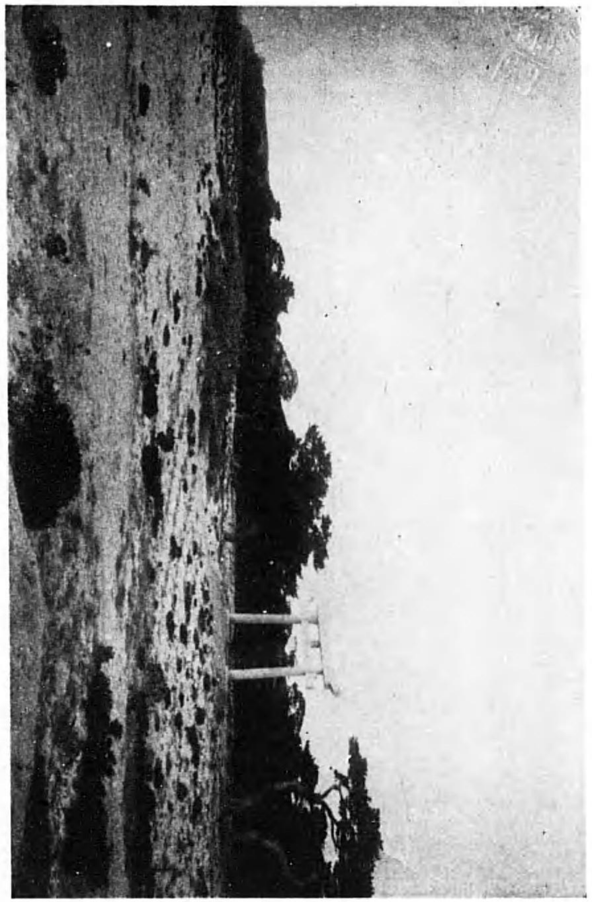
三原郡八木村養宜字上八木より市村を經て
神代村神稻字周衞に至る國道

洲本より乗合自動車の便あり

八木村より市村を經て神代村に至る國道は津名郡洲本町より三原郡福良町に通づる國道中の一部にして、現に黑松の並木を有する延長里程は約五粁に及ぶ。松並木總數一千數十本。最大のもの木は鳥井組東端北側にあるものにして樹高三八・五米あり、巨松中には樹齢二百年を出づるものあり、並木の距離の長きこと樹幹の大なることに於て本邦第一と稱せらる。由來等は之を詳にせず。

（大正十五年二月二十四日内務大臣指定　天然紀念物）
（縣報告書　第六輯參照）

淡路國道松並木



慶野松原

慶野松原

三原郡松帆村笥飯野字慶野

私設淡路鐵道掃守驛下車西三十丁（洲本より乘合自動車の便あり）

三原郡湊町を流る、大白川口附近より海岸線に沿ひて南西より東北に向つて延長約三粁名勝五色濱の南端に至る間には松林蜒蜿たり。山林中北部に屬する延長約一粁面積約〇・三六平方粁の松林は國有林にして、林相殊によし。之を廣野松原と稱す。海岸線より四方五〇米位の地點に位しその全形はほぼ三角形をなし幅は最も廣き所にて約五五〇米を測る。中央より稍北にある戎神社の附近に於て大松最も多し。この地西に瀨戸内海を控え四國小豆島を遙に眺め風光明媚なり。

（昭和三年十月内務大臣指定　名勝）

（縣報告書　第六輯參照）

千手ノ松

三原郡賀集村

淡路鐵道　賀集驛西南約二丁

崇德天皇の御宇天永元年妹松院龍尊上人、福良鳴門崎より持來りて之を植えたりと傳へ、著名の名樹なり。目通周圍六・七二米、高さ一八米東西三一米、南北又三一米餘に蟠る。

（大正十五年二月内務大臣指定）

鶴來山長壽院廢寺

三原郡志知村志知佐禮尾組字大谷

明山の頂上にあり。天正年中志知城主野口彌五郎長家、靈山（志知村片田南組字家山）の佛院を移せるものなりと云ふ。今其寺廢して礎石及瓦片を殘せるのみなり。

志知城阯

三原郡志知村松本組字城

中世に當り鄉士野口氏の築造する處、天正の末まで其の家相續し、加藤嘉明に寄附す。嘉明は天正十三年に此の地に封ぜられ海部の士民を領して豐臣氏の水軍たり。慶長二年、嘉明伊豫へ移り後數年にして志知の城塞廢す。城臺のあと方一〇〇米許、四方の内濠は今溜池となれり、尚外濠の阯も存す。

附

錄

御陵墓、國寶及指定史蹟名勝天然紀念物一覽

陵墓

播磨稻日太郎姬命日岡陵	加古郡氷丘村大野字日岡山
大夫人山背淡路墓	三原郡賀集村賀集字鍛治屋組
淳仁天皇淡路陵	三原郡賀集村賀集字賀集組
阿保親王墓	武庫郡精道村打出字親王塚
雅成親王墓	城崎郡五莊村高屋字御所谷
御陵墓傳說地	三原郡市村十一ヶ所村十一ヶ所組
同	明石郡玉津村吉田字小池ノ上王塚
同	多紀郡雲部村東本莊字城山ノ坪

史蹟

指定の事由	所在地	所屬地	指定	管理者
和田岬砲臺	史、四	神戶市兵庫港	民有	大正十年三月	
播磨國分寺阯	史、二	飾磨郡御國野村	國有	同	御國野村
五色塚(千壺)古墳	同	明石郡垂水町	民有	同	垂水町
小壺古墳					
境場山古墳	史、三	飾磨郡御國野村	同	同	御國野村
第一、二、三古墳		武庫郡御影町	國有	大正十一年三月	御影町
處女塚古墳	同				

西宮砲臺	史、四	西宮市	民有
大石良雄宅阯	史、八	赤穗郡赤穗町	同
姬路城	史、四	姬路市本町	國有

名勝

慶野松原	名、九	三原郡松帆村	國有

天然紀念物

鶴山鶴蕃殖地	動、五	出石郡室埴村	國有
高砂ノ松	植、一	加古郡高砂町	同
尾上ノ松	同	同 尾上町	同
曾根ノ松	同	印南郡曾根町	同
妙見ノ大杉	同	養父郡八鹿町	同
生島ノ樹林	植、十六	赤穗郡坂越村	民有
日置村裸僊	植、一	多紀郡日置村	國有
淡路國道松並木	同	三原郡	同
千手ノ松	同	賀集村	同

高羽ノ樟	同	神戸市	民有
八代ノ大樟	同	朝來郡山口村	國有
玄武洞	地、八	城崎郡田鶴野村	同
菁崎ノ屏風岩	地、一、八	揖保郡越部村	國有
		神岡村	民有

國寶建造物

（＊印は國寶をも有す）

所有別	所在地	名稱	
＊本興寺	尼崎市	開山堂、三光堂	
西宮神社	西宮市	本殿、表大門四脚門	
八幡神社	武庫郡山田村	塔婆（三重塔）	
若王子神社	同 同		
八幡神社	川邊郡西谷村	本殿	
御靈神社	有馬郡貴志村	本殿	
住吉神社	同 藍村	本殿	
＊高寶布神社	同 高平村	本殿	
＊太山寺	明石郡伊川谷村	本堂、仁王門	
石峰寺	美囊郡上淡河村	中堂（藥師堂）、塔婆（三重塔）	
天津神社	同 北谷村	本殿	
＊淨土寺	加東郡小野町	本堂（藥師堂）、淨土堂（阿彌陀堂）	

八幡神社	同	同
朝光寺	同	米田村
*一乘寺	本堂	加西郡下里村
*鶴林寺	塔婆（三重塔）、妙見堂、辨天堂、護法堂	加古郡加古川町
圓教寺	本堂、太子堂、鐘樓、護摩堂、常行堂	飾磨郡會左村
彌勒寺	大講堂、鐘樓、金剛堂	同　菅野村
*温泉寺	本堂	城崎郡城崎町
中島神社	本堂（大悲殿・別名圓通閣）	出石郡神美村
名草神社	本殿	養父郡八鹿町
八幡神社	塔婆（三重塔）	氷上郡柏原町
斑鳩寺	社殿	揖保郡斑鳩町
國寶	塔婆（三重塔）	姫路市
	姫路城	

（*印は國寶建造物をも併有す）

國寶

名稱	所有別	所在地
絹本着色千手觀音立像一幅、絹本着色桓野王圖「錢選之印」の印あり一幅、絹本着色寒山拾得圖傳顏輝筆二幅	男爵川崎武之助	神戸市神戸區加納町一
太刀銘備前國長船住左近將監長光造正應二年十月一日	河瀨眞作	武庫郡本山村
短刀銘光包延慶二年二月一日	同	同
紙本墨書三國志、吳志第十二殘卷一卷	同	西宮市川添町
紙本墨書布袋圖大川普濟贊梁楷筆一幅、絹本着色兒大師像一幅、絹本着色佛涅槃圖一幅	武居綾藏	武庫郡御影町
絹本着色施餓鬼圖一幅	村山龍平	神戸市湊東區多聞通二
紙本着色遊行緣起十卷（詞行顯筆）	湊川神社	同湊西區南逆瀨川町二
銅鐘一口	藥仙寺	同湊西區須佐通一
木造十一面觀音立像一軀	眞光寺	同神戸區中山手通八
木造文珠菩薩坐像一軀、普賢菩薩坐像一軀（大九、燒失）	德照寺	同葺合區籠池通七
木造菩薩立像（絹本着色普賢十羅刹女像一幅、木造十一面觀音立像一軀）	歡喜寺	同湊西區羽坂通二
木造菩薩立像	福昌寺	同須磨區須磨町
十一面觀音立像一軀	福祥寺	同湊區湊地方
木造菩薩立像（傳如意輪觀音像）	大哉寺	同湊西區北逆瀨川町
太刀銘包永一口	能福寺	同神戸區神戸港地方
太刀銘定附華卷及中心斷片一口	大龍寺	姫路市本町
	姫路神社	姫路市本町
	射楯兵主神社	姫路市本町

*本興寺	尼崎市	木造日隆上人坐像一軀(傳淨傳作)、太刀銘恒次一口
櫻井神社	同	太刀銘守家拵蒔繪太刀一口
柿本神社	明石市	後櫻町天皇宸翰短籍四十五葉、仁孝天皇宸翰及一座短籍四十九葉
月照寺	同	櫻町天皇宸翰及一座短籍(五十葉)一帖
昌林寺	武庫郡今津町	木造善導大師坐像一軀、木造阿彌陀如來立像一軀
神呪寺	同甲東村	木造如意輪觀音坐像一軀、木造不動明王坐像一軀(不動堂安置)、木造弘法大師坐像一軀(大師堂安置)、木造聖觀音立像一軀(本堂安置)
無動寺	同山田村	木造大日如來坐像一軀、木造釋迦如來坐像一軀、木造阿彌陀如來坐像一軀、木造不動明王坐像一軀、十一面觀音一軀
中山寺	川邊郡長尾村	木造十一面觀音立像一軀、木造藥師如來坐像一軀(藥師堂安置)、木造聖德太子坐像一軀(太子堂安置)、木造大日如來坐像一軀(地藏堂安置)
清澄寺	同小濱村	絹本着色千手觀音像一幅、木造大日如來坐像一軀
小童寺	同東谷村	絹本着色阿彌陀二十五菩薩來迎圖一幅
金心寺	有馬郡三田町	絹本着色十一面觀音像一幅、木造不動明王立像一軀
淨橋寺	同鹽瀨村	木造阿彌陀如來及兩脇侍像三軀、銅鐘一口
清涼院	同有馬町	諸佛集會の繪ある黑漆厨子一基、木造波夷羅大將立像一軀
善福寺	同	木造聖德太子立像一軀

溫泉神社	同	絹本着色熊野曼荼羅圖一幅
明德寺	同山口村	木造阿彌陀如來立像一軀
*高賣布神社	同高平村	木造狛犬一對
多聞寺	同長尾村	木造毘沙門天立像一軀、木造吉祥天立像一軀、木造地藏菩薩立像一軀
觀音堂	同中野村	木造如意輪觀音坐像一軀
護國院	同藍村	木造持國天立像一軀、木造多聞天立像一軀
轉法輪寺	明石郡垂水町	木造阿彌陀如來坐像一軀
多聞寺	同	木造藥師如來坐像一軀、木造日光月光菩薩立像二軀
*太山寺	明石郡伊川谷村	絹本着色不動二童子像一幅、絹本着色兩界曼荼羅圖二幅、絹本着色釋迦三尊像一幅、絹本着色金剛經十六善神像一幅、絹本着色不動二童子像一幅、絹本着色法華曼荼羅圖一幅、絹本着色愛染曼荼羅圖一幅、絹本着色白衣觀音像一幅、絹本着色十六羅漢像十六幅、絹本着色兩界曼荼羅圖二幅、絹本着色十一面觀音像一幅、木造阿彌陀如來坐像一軀、武器類(腹卷二・兜一・脛當二・前立一)、紙本墨書妙法蓮華經三十二卷、紙本墨書大塔宮令旨及注進狀四通
伽耶院	美囊郡志染村	木造毘沙門天立像一軀
*淨土寺	加東郡小野町	絹本着色眞言八祖像八幅、絹本着色佛涅槃圖一幅、木造阿彌陀如來立像一軀、木造阿彌陀如來兩脇士立像三軀、木造重源坐像一軀、銅製五輪塔

*一乘寺	加西郡	下里村	
*鶴林寺	加古郡加古川町		
尾上神社	同	尾上村	
十輪寺	同	高砂町	
長樂寺	印南郡西志方村		
隨願寺	飾磨郡	水上村	
圓教寺	同	會左村	
神積寺	神崎郡	田原村	
岩屋寺	同	豐富村	
斑鳩寺	揖保郡	斑鳩町	
加茂神社	同	室津村	
見性寺	同	同	
大覺寺	同	網干町	

〔絹本着色聖德太子及高僧像十幅、絹本着色阿彌陀如來像一幅、絹本着色五大力明像一幅、銅造聖觀音立像二軀〕

〔絹本着色聖德太子繪傳八幅、絹本着色聖德太子像一幅、絹本着色彌陀三尊像一幅、絹本着色悲惠大師像一幅、絹本着色聖德太子像一幅、木造釋迦三尊像三軀、銅像聖觀音立像一軀、木造鶴林寺扁額一面（傳鳥羽天皇宸翰）、木造十一面觀音像一軀、木造天蓋一個、銅鐘一口、木造螺鈿漆厨子一基〕

銅鐘一口

絹本着色五佛尊像一幅

木造地藏菩薩半跏像一軀

木造毘沙門天立像一軀

木造釋迦如來及兩脇侍像三軀、木造四天王立像四軀

木造藥師如來坐像一軀

木造毘沙門天像

〔紺紙金泥釋迦三尊十六羅漢像五幅、絹本着色聖德太子勝鬘經講讃圖一幅、木造釋迦如來坐像一軀、木造藥師如來坐像一軀、木造如意輪觀音坐像一軀、木造日光月光菩薩立像二軀、木造十二神將立像八軀〕

神馬圖額二面（元信筆）

木造毘沙門天立像一軀

〔絹本着色釋迦三尊像三幅、絹本着色十六羅漢像十六幅〕

最明寺	佐用郡三日月村		
光久寺	宍粟郡	安師村	
瑠璃寺	宍粟郡	三河村	
文常寺	城崎郡	三江村	
*温泉寺	同	城崎町	
帝釋寺	同	香住町	
大乘寺	同	同	
東樂寺	同	中筋村	
出石神社	出石郡	神美村	
黒野神社	美方郡	村岡町	
相應峯寺	同	濱坂町	
乘寶寺	氷上郡	柏原町	
常勝寺	同	久下村	
高源寺	同	神樂村	

木造北條時賴坐像一軀

〔絹本着色迦伐蹉尊者像一幅、注荼半託迦尊者像一幅〕

絹本着色不動明王二童子像一幅

木造聖觀音立像一軀

〔絹本着色十六善神像一幅、木造十一面觀音立像一軀〕

〔木造千手觀音立像一軀〕

木造聖觀音立像一軀

〔紙本墨山水圖上段の間張付一切（三）及襖四枚（應擧筆）、紙本着色郭子儀圖襖八枚（應擧筆）、紙本墨畫孔雀圖襖十六枚（應擧筆）、木造聖觀音立像一軀、木造十一面觀音立像一軀、木造聖觀音立像一軀、木造四天王立像四軀〕

脇指（但州住國光外に梵字あり）

絹本着色釋迦十六善神像一幅

木造十一面觀音立像一軀

〔紫紙金泥法華經八卷、紺紙金泥大威德陀羅尼經一卷（巻十六）〕

〔銅造十一面千手觀音立像一軀、木造藥師如來坐像一軀〕

絹本着色普應國師像一幅

達身寺	同	葛野村	
藥師堂	同	久下村	木造阿彌陀如來坐像一軀、木造十一面觀音坐像一軀
八幡神社	多紀郡	日置村	木造藥師如來坐像一軀、木造（藥師如來坐像一・阿彌陀如來坐像一・聖觀音立像一・吉祥天立像一・十一面觀音立像三・地藏菩薩坐像一・兜跋毘沙門天立像一）九軀
西行寺	同	同	木造藥師如來坐像一軀
櫛岩窓神社	同	大芋村	木造（持國天像一・多聞天像一）二軀
二村神社	同	古市村	木造藥師如來像一軀、木造（持國天立像一・增長天立像一・多聞天立像一）三軀
大國寺	同	味間村	木造（櫛岩窓命坐像一・豐岩窓命坐像一）二軀、木造大宮比賣命坐像一軀
八幡神社	津名郡	洲本町	木造伊邪那岐命坐像一軀
國分寺	三原郡	八木村	木造（大日如來坐像二・阿彌陀如來坐像一・持國天立像一・增長天立像一）五軀
成相寺	同	同	腹卷一領（附兜一・大袖小手一・曲輪一）
護國寺	同	賀集村	木造釋迦如來坐像一軀
			木造藥師如來立像一軀
			木造大日如來坐像一軀

兵庫縣史蹟名勝天然紀念物調查報告總目次

史蹟之部　輯別目次

第一輯　（大正十二年五月）

第一	五色塚（千壺）古墳	明石郡垂水町
第二	小壺古墳	
	壇場山古墳	飾磨郡御國野村國分寺
	第一、二、三古墳	
第三	處女塚古墳	武庫郡御影町東明
第四	播磨國分寺阯	飾磨郡御國野村國分寺
第五	大石塁阯	赤穗郡赤穗町
第六	和田岬砲臺	神戸市
第七	西宮砲臺	西宮市

第二輯　（大正十四年五月）

（兵庫縣下に於ける古式古墳の調査）

第一	夢野丸山古墳	神戸市夢野
第二	得能山古墳	神戸市板宿

第三　求女塚　武庫郡住吉村吳田
第四　打出村發見ノ古鏡　同　打出村
第五　扇保會塚　武庫郡本山村
第六　池田山古墳　川邊郡立花村塚口
第七　北濱村牛谷發見ノ古鏡　印南郡北濱村牛谷
第八　小山古墳（壇場山第三古墳）　飾磨郡御國野村國分寺
第九　吉島古墳　揖保郡香島村吉島
第十　小見塚古墳　城崎郡城崎町今津
第十一　神美村ノ古墳　出石郡神美村森尾

第三輯

（大正十五年三月）

第一　廣峰神社　姫路市廣峰山
第二　東光寺　同　八代
第三　六條八幡　武庫郡山田村中村宮
第四　丹生神社　同　丹生山
　　明要寺阯　同
第五　今津町先儒ノ遺蹟　武庫郡今津町

第六　永思堂　武庫郡今津町
第七　弘計億計二王隱棲傳說地　美囊郡志染村
第八　室津賀茂神社　揖保郡室津町

第四輯

（昭和二年三月）

第一　淡路と西宮に於ける人形操の調査
第二　苑原ノ處女塚　武庫郡御影町
第三　湯泉神社並清涼院　有馬郡有馬町
第四　弘計億計二王隱棲傳說地　美囊郡志染村
第五　八幡村ノ調子塚古墳　加古郡八幡村
第六　鵤庄及斑鳩寺　揖保郡斑鳩村
第七　千光寺　三原郡加茂村

第五輯

（昭和三年三月）

第一　會下山二本松古墳及び經塚
　第一項、會下山二本松古墳　神戸市
　第二項、同　經塚

第二　姫路城　姫路市
第三　大覺寺　尼崎市
第四　宍粟郡神戸村銅鐸發見地及び銅鐸
第五　鳥飼八幡宮　津名郡鳥飼村

第六輯

（昭和四年三月）

第一　淨土寺　加東郡小野町
第二　報恩寺　印南郡平荘村
第三　赤松氏ノ遺蹟　赤穗郡赤松村
第四　岩屋砲臺　津名郡岩屋町

第七輯

（昭和五年三月）

第一　眞光寺　神戸市
第二　中山寺境内古墳　川邊郡長尾村
第三　多田神社及多田莊　同　多田村多田院
第四　松原八幡宮　飾磨郡白濱村
第五　但馬國分寺阯　城崎郡日高村國保
第六　水石古佛像　出石郡合橋村水石

第七、相應峯寺　濱坂町清富

第八輯

（昭和六年三月）

第一　垂水歌敷山古墳　明石郡垂水町
第二　御嶽山清水寺　加東郡鴨川村
第三　柏原八幡神社　氷上郡柏原町
第四　石龕　同　小川村
第五　櫛岩窓神社　多紀郡大芋村

第九輯

（昭和七年三月）

第一　湯川山法光寺　美囊郡中吉川村
第二　富合村玉丘古墳　加西郡富合村玉野新家
第三　石寶殿——生石神社——　印南郡阿彌陀村
第四　龍子三ッ塚古墳　揖保郡揖西村龍子
第五　上郡古墳　赤穗郡上郡町
第六　西播地方ノ古石佛　揖保郡越部村
第一項、嘯崎ノ磨崖石佛　赤穗郡矢野村
第二項、瓜生ノ石佛ト矢野庄　佐用郡三日月村
第七　最明寺

史蹟之部　件別目次

神社

廣峯神社　姫路市
六條八幡　同
永思堂垂加御靈　同
多田神社及多田莊　川邊郡多田村
湯泉神社並清涼院　有馬郡温泉町
石寶殿——生石神社　印南郡阿彌陀村
松原八幡宮　飾磨郡白濱村
室津賀茂神社　揖保郡室津町
柏原八幡神社　氷上郡柏原町
櫛岩窓神社　多紀郡大芋村
鳥飼八幡宮　三原郡鳥飼村

寺院

眞光寺　姫路市　第三

東光寺　姫路市　第三
大覺寺　尼崎市　第五
丹生神社明要寺址　武庫郡山田村　第一三
湯川山法光寺　美囊郡中吉川村　第九
淨土寺　加東郡小野町　第六
清水寺　同　鴨川村　第八
報恩寺　印南郡平莊村　第六
鵤庄及斑鳩寺　揖保郡斑鳩村　第四
最明寺　佐用郡三日月村　第九
相應峯寺　美方郡濱坂町　第七
石龕寺　氷上郡小川村　第八
千光寺　三原郡加茂村　第四

城郭

播磨國分寺阯　飾磨郡御國野村　第一
但馬國分寺阯　城崎郡日高村　第七
和田岬砲臺　神戸市　第一